

各教科等学習指導案（項目）

※各教科等に共通している項目です。指導案を作成する際には、各教科等の指導案例を参考にしてください。

1 単元（題材）名

2 単元（題材）設定の理由

- (1) 児童生徒について
- (2) 教材（題材）について
- (3) 指導について

※各教科等の例を参考にしてください。

※教科等の特質により、(1)～(3)の順が異なる場合があります。

3 単元の目標

※単元の目標を作成するに当たっては、本県が新大分スタンダードに基づいた授業改善を推進していることを踏まえ、**指導者の指導の意図や育成を目指す資質・能力を明確にする**ため、指導者の立場で記述するようにします。

※単元の目標は、一文で書く場合と、資質・能力の三つの柱に即して三つで書く場合があります。

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①	①	①
②	②	②
②	②	③

※小・中学校とも3観点で書きます。

※各教科等の単元（題材）の評価規準作成の手順は、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所 令和2年3月）を参考にしてください。



参考資料 QR コード

5 指導と評価の計画（○時間）

（例）

小単元名 （時数）	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法
		知	思	態	

※単元や題材など、内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びが実現されるようにします。

※各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにします。

※単元（題材）を見通して、教師の指導改善に生かす評価と、総括の資料とするため全ての児童生徒の学習状況を評価して記録に残す場面の位置付けを考えます。

※「新大分スタンダードのすすめ」（平成31年3月 第3版）を参考にしてください。



※「早わかり！単元計画の作成手順」も参考にしてください。



○学年○組 国語科学習指導案

令和○年○月○日 (○) 第○校時
○年○組 ○名
指導者 ○○ ○○

1 単元名 *「○○をしよう」など、どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのが生徒に分かるように工夫する。

教材名 ○○○○ (作者・筆者、出版社名等)

2 単元設定の理由

(1) 生徒について

*次のような観点から実態をとらえる

- ①同系統の前単元ではどのような能力の育成をねらって、どのような言語活動を行ったか。
- ②その学習において、生徒はどのような言語能力を身に付けているか。
- ③まだ身に付いていない言語能力はどのようなものか・・・単元の目標とずれないように

(2) 単元構成について

* (1) 「生徒について」の記述をふまえて、

- ①本単元ではどのような言語能力を育成するのか
- ②その能力を育てるために、どのような教材や言語活動を組み合わせて単元を構成するのが概観できるように記述する。

(3) 指導について

* (1) 「生徒について」 (2) 「単元構成について」の記述をふまえて、

- グループ学習やペア学習などの指導形態や、ワークシートや学習の手引きの工夫、自己評価・相互評価の工夫など、具体的な指導上の工夫点を記述する。

3 単元の目標 *下に示す3点について、単元の目標を設定する。

※単元の目標を作成するに当たっては、本県が新大分スタンダードに基づいた授業改善を推進していることを踏まえ、指導者の指導の意図や育成を目指す資質・能力を明確にするため、指導者の立場で記述する。

①「知識及び技能」の目標

②「思考力、判断力、表現力等」の目標

} →①、②については、基本的に指導事項の文末を「～できるようにする。」として示す。

③「学びに向かう力、人間性等」の目標

→③については、いずれの単元においても当該学年の学年の目標である「言葉がもつ価値～思いや考えを伝え合おうとする」までを示し、文末を「伝え合おうとするようにする。」として示す。(ただし、「読書」に関する部分については、学習活動により適切に設定すること)

4 本単元における言語活動

例 関心のある事柄について、投書を書く。(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ア)

5 単元の評価規準

*観点別に記述する。観点は以下の通り。

①「知識・技能」 { (1)言葉の特徴や使い方に関する事項
(2)情報の扱い方に関する事項
(3)我が国の言語文化に関する事項 } **いずれの単元でも設定**

②「思考・判断・表現」 { (1)話すこと・聞くこと
(2)書くこと
(3)読むこと } **当該単元で指導するものを焦点化して設定 (通常1つ、多くても2つ)**

③「主体的に学習に取り組む態度」 **いずれの単元でも設定**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>*当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している。」として作成する。</p> <p>〔育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。〕</p>	<p>*当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「（領域名）において、」と明記し、文末を「～している。」として作成する。</p> <p>〔育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。〕</p>	<p>*以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。なおく〈〉内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。</p> <p>①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉</p> <p>②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉</p> <p>③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮して欲しい内容）</p> <p>④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）</p>

6 指導と評価の計画<例>（全〇時間）

※内容や時間のまとまり(単元)を見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びが実現されるようにする。
 ※教科の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元を見通しながら評価の場面や方法を工夫して学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにする。

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法(例)
1	*単元の目標達成に直結する学習活動を設定した場合	*評価規準とあわせ、「おおむね満足できる状況(B)」とする生徒の状況(姿)を想定しておくことが大切。	[知・技①] ワークシート ・根拠に関連する具体的な出来事や事実を記入しているか確認する。
2	*単元の目標を達成するために必要な学習活動ではあるが、単元の目標には直結しない学習活動を設定した場合	*本時では生徒の学習状況を捉えるための評価及びそれに基づいた指導は行うが、 <u>単元の目標に直結する学習活動を設定していないことから、本単元の評価には含めない。</u>	
3	(※ 第1時・第2時と同様にして学習活動や評価規準等を設定する)		
4			[主①] 下書き原稿 ・多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現とはどのようなものかを検討しているか確認する。 [思・判・表①] 推敲した文章 ・多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現にすることができているかどうかを確認する。

7 本時の指導（ / ）

(1) 本時のねらい

※指導者の指導の意図や育成を目指す資質・能力を明確にするため、指導者の立場で記述する。

(2) 本時の評価規準

*本時のねらいと対応させる。

*単元の評価規準をもとに、本時で「おおむね満足できる状況(B)」とする生徒の状況(姿)を想定して設定する。

(3) 展開

序 号	学習活動	指導上の留意点	評 価
1	<p data-bbox="268 645 1236 689" style="text-align: center;">本時のめあてや学習課題等を書く</p> <p>*生徒の立場で書く *「学習の見通しをもつ活動」「振り返り(まとめ)の活動」を位置付ける。</p>	<p>○</p> <p>*指導者の立場で書く。 *学習活動と対応させて、支援の意図・重点・手立てなどについて留意すべきことを具体的に書く。</p> <p style="border: 1px dashed red; padding: 5px;">※「C 努力を要する状況」と判断される生徒への具体的な手立てを想定し、記載する。</p>	<p>・</p> <p>*評価場面と方法を明らかにする。</p>

1 学年〇組 国語科学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
1 年〇組 〇〇名
指導者 〇〇 〇〇

- 1 単元名 作品に込められた作者の思いを読み取り、考えたことを伝え合おう。

教材名 「大人になれなかった弟たちに……」 米倉 斉加年 (「国語1」光村図書)

2 単元設定の理由

(1) 生徒について

文学的文章の学習においては、これまでに「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて描写をもとに捉えること」について、感想を交流する学習を行った。学習を通して、行動描写や情景描写などに注意しながら読み進めることはできるものの、自身の経験等と結び付けて考えることは苦手であり、作品に対する読みの深まりも十分とは言えない。

(2) 単元構成について

本単元では、物語を読んで考えたことを伝え合う言語活動を通して、「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものにする力」を育成する。

まず、「作品に込められた作者の思いについて自分の考えをもつ」というゴールを示し、学習の見通しを持たせる。そして、生徒に考えをもたせるために必要となる文章の内容や構造を捉える学習を行う。教材文「大人になれなかった弟たちに……」は戦争という厳しい状況下における家族の姿が描かれている。物語に表れる兄の弟を思う気持ちや母の必死に子を守ろうとする愛情は不変である。生徒は自分と年齢の近い「僕」の思いに寄り添い共感しながら内容を理解し、それをもとに自分の考えをもつことができると考える。さらに、各自の考えを伝え合う活動で自分とは異なる他者の考えに触れさせ、改めて自分の考えの形成を振り返らせることで、各自が自分の考えをより確かなものにできるようにする。

(3) 指導について

指導に当たっては、「作品に込められた作者の思いを読み取り、考えたことを伝え合おう」という単元のめあてについて、生徒が具体的に考えやすいよう作者インタビューを活用する。作者が本作品を書く際に感じた「何か言っておかねばならないことがあるような気がしていました。」という言葉にある「何か」について作品を読むことを通して考えさせるとともに、自分の考えをまとめさせる。

また、各自がまとめた考えを伝え合う際には、他者の考えと自分の考えを比較して聞くことができるようワークシートを工夫する。

さらに、自分のまとめた考えを再度振り返らせ、自分の考えを確かなものにするために、作者が中学生に宛てて書いた手紙を紹介し、これまでの学習をじっくり振り返らせるようにしたい。

3 単元の目標

- ・ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法について理解することができるようにする。
[知識及び技能] ((1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 オ)
- ・ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるようにする。
[思考力、判断力、表現力等] (C 読むこと イ)
- ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするようにする。
[思考力、判断力、表現力等] (C 読むこと オ)
- ・ 言葉がもつ価値に気付くとともに、我が国の言語文化を大切にして思いや考えを伝え合おうとするようにする。
[学びに向かう力、人間性等]

4 本単元における言語活動

「小説を読み、考えたことを伝え合う活動」を位置付けた。

(関連 [思考力、判断力、表現力等] C(2)イ)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解している。</p> <p>(1)オ</p>	<p>①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。</p> <p>(C(1)イ)</p> <p>②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。</p> <p>(C(1)オ)</p>	<p>・進んで登場人物の心情変化等を捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。</p>

6 指導と評価の計画（全5時間）

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価
一次 (1)	○学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・作者インタビューを読み、作者の言葉にある「何か」について、作品を通して考えることを確認する。 ・「大人になれなかった弟たちに…」の朗読を聞き、話の展開や内容の大体をつかむ。 	
二次 (2)~(3)	○描写等に注意しながら作品を読み、「僕」の心情を捉えてワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情をまとめる際に重要となる時代背景や作品中の「僕」の生活の変化について整理させる。 ・「僕」の心情が分かる部分に線を引かせ、そこから分かる心情や人物像をワークシートに記入させる。 ・線を引いた部分のうち、文末の特徴や表現技法について取り上げ、その効果についても考えさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 ワークシート 行動や情景の描写などに注意しながら読み、「僕」の心情を捉えているか確認。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〔知識・技能①〕 ワークシート 文章中の表現技法や特徴的な文末を取り上げ、その役割やそこに込められた思いを捉えているか確認。</p> </div>
三次 (4)~(5)	<p>○ワークシートにまとめたことを踏まえ、作者の言葉にある「何か」について考えをまとめる。</p> <p>○各自で考えた「何か」を伝え合い、自分の考えを確かなものにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作者にとって一番恥ずかしくて言えなかったことである「ミルクを盗み飲みした」事実を作品に書いた意図や題名の持つ意味について、グループで意見交流する。 ・「何か」についての自分の考えをノートにまとめさせる。その際、自分の体験と重ね合わせたり「もし自分なら…」と想像したりすることで、伝え合う際に聞き手に分かりやすい表現で書くようにさせる。 ・グループで交流する際には、自分の考えと比較しながら聞かせるともに、各自の発表後、必要に応じて質問タイムを取る。 ・各自の発表終了後、作者の手紙を紹介する。 ・交流等を通して自分の考えがより確かになった部分や広がった部分に線を引かせ、付箋に理由や考えの補足を書いて貼り付けさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現②〕 ノート 「何か」について、ワークシートにまとめた内容をもとに考えをまとめているか確認。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 観察・ノート 自分が考えた「何か」を伝えたり、他者の考えと比較しながら聞き、気が付いたことをメモしたりしようとしているか確認。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現②〕 付箋紙 交流等で考えが確かになったことや広がったことを付箋紙に書いているか確認。</p> </div>

7 本時案 (4/5)

(1) 本時のねらい

ワークシートの内容をもとに、作者インタビューで語られた「何か」について考えさせるとともに、考えたことを自分のことばでまとめることができるようにする。

(2) 本時の評価規準

文章中の描写やそこに表れた「僕」の心情を根拠として、作者インタビューで語られた「何か」について考え、自分のことばでまとめている。

(3) 展開

学習活動	時間	教師の指導・支援	評価規準・評価方法
1 本時のめあてを確認する。	2	○本時の流れとめあてを確認させる。	
作者が伝えたかった「何か」について考え、思いを代弁しよう。			
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・第1時に読んだ作者インタビューの内容について確認する。 ・作者が伝えたかった「何か」についてグループ内でフリートークを行う。 	
2 作者が伝えたかった「何か」について考え、自分の言葉でまとめる。	33	○作者が伝えたかった「何か」について考える。 ・作者インタビューの「僕の中では『ミルクを飲み干した』という、いちばん恥ずかしくて言えなかったことを書かなければいけなかった」という言葉に着目させる。 ・作者インタビューと作品から読み取ったことをつないで考えさせるため、自分の考えの基となるワークシートの箇所にマーカーを引かせる。 ・自分なら何をつたえたいと思うかについても想像させ、「何か」について考えた内容やその根拠をノートに整理させる。 ※自分の考えがなかなか持てない生徒には、フリートークでの他者の考えを参考にさせる。 ○ノートに整理した内容をもとに、考えたことを代弁としてまとめる。 ・「この作品を通して筆者が伝えたかったのは・・・」に続くように発表原稿を書く。 ・伝え合う際に、聞き手に分かりやすい表現で書くようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>観察・ノート</u> ここでは、前時までに学習した内容をもとに「何か」について考え、自分の言葉でまとめようとしているか確認する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現②〕 <u>ノート</u> ここでは、前時までに学習した内容を根拠として「何か」について考え、自分の言葉でまとめているか確認する。</p> </div>
3 本時の振り返りと次時の確認をする。	5	○本時で学んだことを振り返らせ、次時の学習を確認させる。	

社会科学習指導案【例】

第〇学年社会科学習指導案

令和〇〇年〇月〇日〇曜日
 第〇校時 〇時〇分～〇時〇分
 〇年〇組 〇名
 指導者 〇〇 〇〇〇

1 単元名 「〇〇〇〇〇〇」

2 単元設定の理由

(1) 児童生徒観（このような児童生徒に）

○**児童生徒の社会科学における主体的に学習に取り組む態度、単元に関する知識・技能や思考・判断・表現の観点から定着度などを書く。**

- ① 主体的に学習に取り組む態度については、社会科学において粘り強い取組を行おうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面からとらえること。
- ② この単元に関わっての実態を、今までの指導との関連からまとめる。
- ③ 児童生徒のマイナス面よりもよりよいところをとらえる。
- ④ 事前調査等をしていれば具体的数値等の根拠をもって示す。

(2) 教材観（このような教材で）

○**学習指導要領などをもとに十分な教材分析をし、取り上げる単元の内容、特質や意味、既習事項との関連、今後の展開などを書く。**

・社会的事象は一面的一方向的な捉えにならないように留意する。

(3) 指導観（このような指導がしたい）

○**指導・支援の方法、学習形態、仮説、配慮事項等の工夫や手立てを書く。**

- ① 作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を充実させた指導を工夫する。
 - ② 協働思考を伴う学習活動を工夫する。
 - ③ 児童生徒が考えたことを言語などで表現をする活動を工夫する。
 - ④ 知識及び技能の確実な習得ができるように工夫する。
- ※ 研究会等の場合は、研究主題との関連も具体的に書く。

3 単元の目標

○**単元の目標は、次の3つの要素を入れて一文で書く。**

- ・学習内容（～について）
- ・学習活動（～する活動を通して、～によって、～することにより、～して、～に基づいて等）
- ・付けたい力（～ようにする）

※**資質・能力の三つの柱に即して、三文で書くことも考えられます。**

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料〔令和2年3月〕 〔国立教育政策研究所〕第2編「評価規準に盛り込むべき事項等」を参考にする。</p>		

5 指導と評価の計画（全○時間）

次 程	ねらい 〔第○時〕	主な学習活動・内容	評価規準と評価方法
第 一 次	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 単元を貫く学習課題（問題）を記載 </div>		
第 二 次			
第 三 次			

6 本時案

(1) 題目「○○○○」※この時間に学習する内容を端的に示す。例「新しい技術を育む社会」
など

(2) 本時のねらい

単元のうち本時の学習活動で目標としているものを具体的に書く。

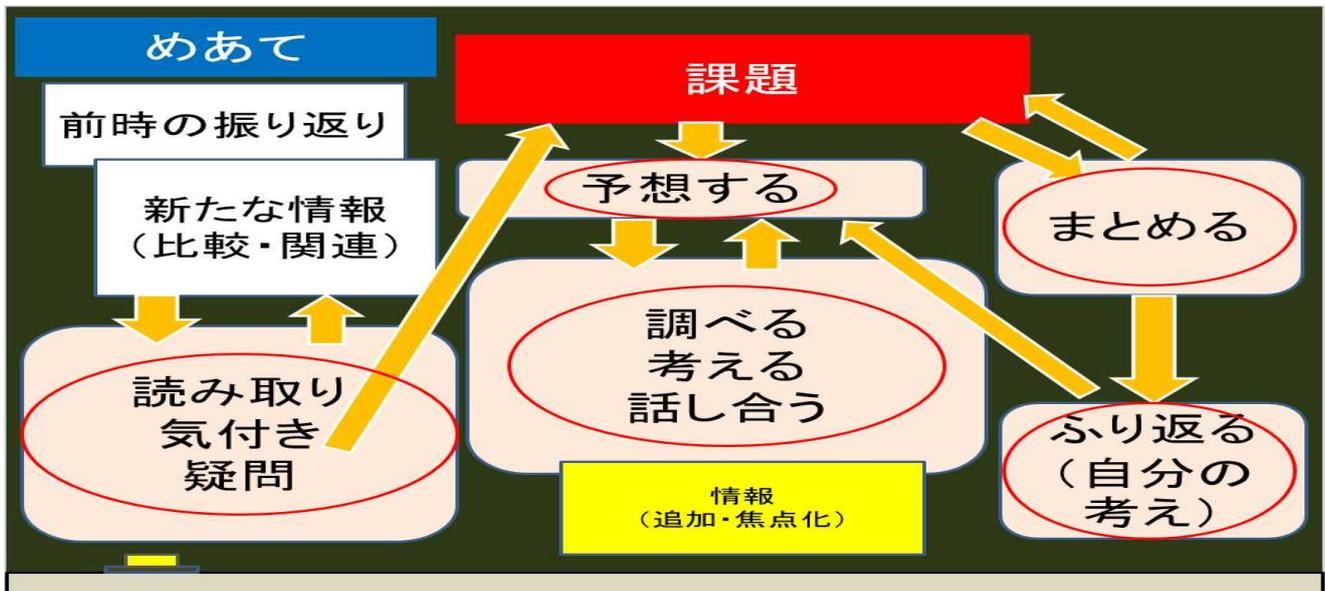
- ① 児童生徒がこの時間に身に付けることを一文で示したものが本時のねらいである。
 - ・学習内容
 - ・学習活動
 - ・本時に付けたい力
- ② 付けたい力は1つか2つに絞ること。
- ③ ねらいと評価規準が一体となること。（ねらいと評価の整合性）

(3) 展開

主な学習活動・内容	教師の指導・支援	備考（評価等）
1		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 本時の学習問題（課題）や目標を実線で囲んで書く。 </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 導入・展開・終末の学習過程に 沿って、児童生徒の立場で 書く。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◇ 学習過程に沿って、支援の意図・重点、手立てなどについて留意すべきことを具体的に指導者の立場で書く。 ◇ 「努力を要する」状況（C）と判断される場合における児童・生徒への手立てや教育的配慮を必要とする児童・生徒への配慮の意図と手立ての例を示す。 ◇ 学習活動と教師の支援とのかかわりを対応させて書く。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 本時のねらいや単元の評価規準と対応させた評価規準と評価方法を書く。 </div>

3	(例) ～して～できるようにする	(例) ○○○ (評価方法) から 「◆◆◆しているか」を 評価する。
4	学習問題（課題）に対応する学習のまとめ 児童生徒によるまとめの例	

7 板書計画（例）



【各段階における指導のポイント】

- ◇導入 既習事項を整理し、新たな学習課題と出会う場面
 - ① 矛盾や素朴な疑問を引き出す場の構成はあるか。
 - ② 学習目的の明確化と意欲の高揚は図られるか。
 - ③ なぜ、学習するのが児童生徒に理解されているか。
- ◇展開 悩み、考え、自分なりの考えをもち、課題解決をする場面
 - ① 学習課題は児童生徒に意識付いているか。（見通しが立つか）
 - ② 自分で考え、判断し、表現する場があるか。
 - ③ 学習方法を児童生徒が選択できるか。（個々の学習スピードに配慮があるか）
- ◇終末 まとめる活動を通して、本時の目標を達成する場面
 - ① 児童生徒自身によるまとめの活動はあるか。
 - ② 自分の学習活動を振り返る場はあるか。（自己評価）
 - ③ 新しい知識、確かな技能が獲得され、新たな学習意欲へとつなげられたか。

数学科学習指導案（例）

令和〇〇年〇月〇日〇曜日

第〇校時 〇時〇分～〇時〇分

〇年〇組 〇名

指導者 〇〇 〇〇〇

1 単元名

2 単元設定の理由（指導の立場）

次の3点について書いていく。それぞれ〇〇観とは書かず、3段落に分けて書くことが多い。

（1）教材観

教材の価値や付けたい力、発展系列における位置付けなどを書く

例：これまでに～本教材は～さらに～

（2）生徒観

本題材を学習する上での生徒の予想される関心・興味、予想される出方、できることとできないこと、生徒に対する期待感、学習に対する生徒の構え、実態などを具体的に書く。

また、事前のレディネステストやアンケートなどのデータをもとに書くこともある。

（3）指導観

上記の2つの観点を踏まえ、どのように指導していくか、個に徹する指導を目指したり、意欲を持って主体的に取り組むために指導上特に留意したり、配慮したりすること、教師の出番や間合いの取り方などを具体的に書く。

※ 上記（1）～（3）の3つがバラバラにならないように書くことが必要。

※ 生徒観を先に書き、それを踏まえて教材観、指導観と記載する場合もある。

※ 校内研究等の内容によって、強調して書く部分等がでてくる場合がある。

3 単元の目標

生徒に身に付けさせたい力を3つの資質・能力ごとに記述する。（指導者の立場で記述する）

（1）知識及び技能の目標

（2）思考力、判断力、表現力等の目標

（3）学び向かう力、人間性等の目標

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料〔令和2年3月〕 〔国立教育政策研究所〕を参考にする。		

5 指導と評価の計画（〇〇時間扱い）＜単元指導の展開構想を明確に示す＞

時	学習活動	評価規準と評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1次	生徒の立場で表記する。 (～を考える。 ～を解く。 ～を理解する。 など)	○～について理解している。 [観察]		○～を考えようとしている。 [観察、振り返りシート]
第2次 (本時)			○～を表現することができる。 [観察、ノート分析]	
第3次		○～を解くことができる。 [観察、小テスト]		
第4次			○～を活用することができる。 [観察]	◎～問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 [観察、振り返りシート]
第5次		◎ ～を解くことができる。 [小テスト]		

※ 評価規準は、1時間当たり、多くても2つ程度である。

◎は、総括の資料とするための評価として、全員の学習状況を評価して記録に残す。

○は、指導の改善に生かすための評価の機会とする。

「総括の資料とするための評価」…単元における観点別学習状況評価を行なうため、学級全員の生徒の学習状況を評価して、記録に残していくもの。

「指導の改善に生かす評価」…授業中に努力を要する生徒を確認し、その後の指導に生かすために行うもの。

※ 目標に到達しているかどうかを確認する評価問題・評価手段を準備する。付けたい学力の性質によって評価方法・手段は変わる。

6 本時案

(1) 題目 1時間の学習のまとまりを端的に示す(名詞止め、問いかけ、表現活動等)

(2) 本時のねらい

A: 学習内容(～を、～について)、

B: 学習活動(〇〇を通して、〇〇でまとめて、〇〇と比べて)、

C: 育成を目指す資質・能力(△△できるようにする。)

※A、B、Cの3つの要素を入れる。

※指導者の立場で記述する。

(3) 展開(〇分)

学習活動	時	指導内容及び指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
ねらいを達成するために行う活動を、活動のまとまりで書く。 ※生徒の立場で書く。 *話し合う *出し合う *考える *作る *調べる 等 ※活動は番号をつける。 (順序性がある) ※あいさつをするなどはいれない。	分 単 位 で 記 述	○や・であらわす。 ○は中心的な働きかけや手立て(指導内容) ・は出方の予想や補助的な働きかけ。 ※次のような事柄について書く。 [例] *学習のきっかけ作り *問いかけ(めあて、課題提示) *各自のやり方・試行・作業などのさせ方 *どこまで進んだら発表させるか *出してきた答えや根拠の整理・まとめ方 *ずれ・矛盾・疑問点を明らかにしていく方法 *個の力にあった多様な方法を想定しておき、実際に即して指導していく方法 *より良い考えを選び出したり、作り上げたりしていくときの手立て *発展・応用していく方法 *次の時間へのつなぎ方・・・など	※指導計画等に位置付け、本時に該当する評価規準を、該当箇所に記述する。 ※評価方法も()で明記する。 ※評価に関連した留意事項等があれば記述も可。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 本時の「ねらい」と評価規準を連動させて設定する。 </div>
本時の「課題」と「まとめ」は <input type="text"/> で囲む		※教師の一方的な指導と思われる記述ではなく、生徒の主体的な姿が表れた記述にするとよい。	※評価は、1～2が適当である。

- * 生徒指導を中心に据えての教科指導であれば、生徒指導の3機能を踏まえた活動が盛り込まれた事柄を書くようにする。また、「指導上の留意点」とするよりも「支援の方法」「指導・援助の留意点」などとし、上記のことに配慮した内容になるようにする。
- * 活動の場の在り方を中心に研究していれば「どのような活動を」「どのような目的で」「どのように仕組むか」などが書かれている必要がある。
- * 評価の研究であれば、「どこで」「何のために」「どのような評価をして」「それをどのように生かすか」などを書く必要がある。
- * 評価の欄については、「生徒指導上の配慮点」「評価とその生かし方」「活動の場での配慮点」などの設定も考えられる。

学校独自の学習過程や研究内容にあった指導案づくりをすることが大切。

※ただし、どの学校に行っても対応できるように、汎用性のある指導案を作成できるようにしておくことが重要である。

中学校理科学習指導案（例）

令和〇〇年〇月〇日〇曜日
第〇校時 〇時〇分～〇時〇分
〇年〇組 〇名
指導者 〇〇 〇〇〇

1 単元名

2 単元設定の理由

(1) 教材観

教材の価値・意義付け、および学習内容の系統を踏まえた位置付け等を記述する。

- (例) ・本教材は～という特徴がある。
- ・本教材は～に位置付いている。
- ・本教材は～に適している。

(2) 生徒観

生徒の関連既習事項に対する興味・関心、知識や技能、思考力、判断力、表現力などの実態を、日頃の学習活動やアンケート結果などをもとに記述する。

- (例) ・これまで～という学習を行ってきた。
- ・～が身に付けている。

(3) 指導観

(1) と (2) を踏まえて、単元のおおまかな流れ、学習形態、観察・実験方法、ワークシートの工夫、ICT 機器の活用、校内研究との関わり等、指導の手立てを具体的に記述する。

3 単元の目標

- ・学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- ・生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえる。
- ・以下の3点について単元の目標を設定する。
 - ①「知識及び技能」
 - ②「思考力、判断力、表現力等」
 - ③「学びに向かう力、人間性等」
- ・「～できるようにする」など、教師の立場で書く。

4 単元の評価規準 ※第3学年「天体の動きと地球の自転・公転」の例

- ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点ごとに評価規準を設定する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、日周運動と自転、年周運動と公転についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	天体の動きと地球の自転・公転について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の動きと地球の自転・公転についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	天体の動きと地球の自転・公転に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【「評価規準」を作成する際の観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」については、学習指導要領の「2 内容」における知識に関する（ア）、（イ）などの文末を「～を理解している」として作成する。
- ・「技能」については、「科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている」として作成する。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」については、学習指導要領の「2 内容」における思考力、判断力、表現力等に関する文末を「～見いだして表現しているなど、科学的に探究している」として作成する。
（3年は、探究の過程を振り返るなどを加える）

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、「…についての事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。」を用いて作成する。

5 指導と評価の計画

- ・ 観点別の学習状況について全ての生徒分を記録に残す場面等を精選するためには、単元のまとまりの中で適切に評価を実施できるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、タイミングや方法を意図的・計画的に考えておくことが重要である。
- ・ 日々の授業の中で生徒の学習状況を把握して指導の改善に生かすことが重要であるため、生徒全員の観点別の学習状況を記録に残す場面以外においても、教師は特徴的な生徒の学習状況を確認（メモを含む）する必要がある。

（例）指導と評価の計画（第3学年「太陽と地面の様子」の単元を例として）

※「重点」は、重点的に生徒の学習状況を確認する観点

※「記録」の○は、生徒全員の学習状況を記録に残す場面

時間	学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	○天球を使った天体の位置の表し方を知る。 ○地球上の一点で、方位と時刻がどうなっているかを知る。	知		・地球上の特定の場所における時刻や方位を読み取っている。
2	○太陽の日周運動の観察を計画する。 （次の授業までに、観察を行う。）	知		・太陽の動きを観察し、その結果を適切に記録している。
3	○透明半球に付けた点を結び、太陽が動いた軌跡を表す。 ○観察記録から、太陽の一日の動き方の特徴を見いだす。	知	○	・透明半球に付けた点を結び、太陽の動いた軌跡を表している。 [透明半球]
4	○コンピュータシミュレーションや写真を用いて、星の一日の動きを透明半球にまとめる。	思	○	・透明半球に、星の一日の動きを表し、その特徴を見いだして表現している。 [透明半球、記述分析]
5	○相対的な動きによる見え方を理解する。 ○相対的な動きによる見え方と地球の自転とを関連付けて、モデルを用いて地球の自転の向きを推論する。	態	○	・天体の日周運動を地球の自転と関連付けて、モデルを使って推論しようとしている。 [記述分析、行動観察]
6	○星座の年周運動のモデル実験から、公転によって、季節ごとに地球での星座の見え方が変わることを見いだす。	思		・実験結果を分析して解釈し、公転によって、季節ごとに地球での星座の見え方が変わることを表現している。
7	○天球上での星座や太陽の1年間の動き方について理解する。 ○コンピュータソフトなどで、時間を設定し、シミュレーションしながら星座の位置を確認する。	知	○	・代表的な星座の見える時期について、理解している。 [記述分析]

8	○季節ごとの地球への太陽の光の当たり方の変化をモデル実験で調べる。 ○南半球では、太陽の光の当たる角度の変化が北半球と逆になることを見いだす。	思	○	・季節ごとの地球への太陽の光の当たり方の変化について、実験結果を分析して解釈し、表現している。 [記述分析]
9	○地球儀などのモデルを使い、地軸の傾きと太陽の光の当たり方と、昼と夜の長さの関係を見いだそうとする。	態	○	・地軸の傾きと太陽の光の当たり方と、昼と夜の長さの関係を見いだそうとしている。 [記述分析]

6 本時案

(1) 題目 その時間に取り組む学習テーマを端的に示す

(2) 本時のねらい 3つの要素を踏まえて指導者の立場で書く。

A 学習内容（～を、～について）

B 学習活動（○○を通して、○○と比べて等）

C 育成を目指す資質・能力（△△できるようにする。△△を高めるようにする等）

(3) 展開

(例) 展開の書式

学 習 活 動	時間	指導上の留意点	評価
◇生徒の学習活動を書く。		◇教師が学習活動を充実させるために何をするのかを具体的に書く。	◇評価規準、評価方法を書く。
課題等を書く			
		◇予想される生徒の反応と教師の手立てについて、具体的に書く。 ◇観察・実験で使用する材料、器具等を書く。	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>・予想や考察、まとめ、振り返り等、自分の考えを表現させる学習活動では、その例を示すようにする。 →本時でめざす生徒の姿が明確になり、指導の手立てが明らかとなる。</p> </div> 			
まとめ等を書く			

(引用文献)

- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター（令和2年3月）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』

第〇学年音楽科学習指導案（例）

期 日：令和〇〇年〇月〇日

時 間：第〇校時

対 象：〇年〇組〇〇名

授業者：〇〇 〇〇

1 題材名

「歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう」

2 題材設定の理由

- (1) 児童生徒観
- (2) 教材観
- (3) 指導観

3 題材の目標

「荒城の月」「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、「早春賦」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌い、我が国で長く歌われている歌曲に親しむようにする。

4 学習指導要領の指導事項

第2学年及び第3学年 A表現（1）歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。

イ（ア）曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり

ウ（ア）創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能

[共通事項]

本題材において思考・判断のよりどころとなる要素・・・「リズム・速度・旋律・強弱」

5 教材名

➤ 思考・判断のよりどころとなる要素は絞り込む。（教材で取り扱える全ての要素を記入しない。）

➤ 「題材名」と「興味・関心をもたせたい事柄」の整合性をとる

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
※1 A表現領域は、原則、「 <u>知識</u> 」「 <u>技能</u> 」を分けて記載。 ※2 B鑑賞領域は、「知識」のみ記載。	※3 <u>思考・判断のよりどころとなる要素を選択</u> し、評価規準を作成。	※4 <u>興味・関心をもたせたい事柄</u> を記載し、評価規準を作成。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ● 「荒城の月」, 「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。 ● 創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声, 言葉の発音, 身体の使い方などの技能を身に付け, 歌唱で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「荒城の月」, 「早春賦」のリズム, 速度, 旋律, 強弱を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, 「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画 (○時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
1	◆「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。 ○「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞の内容や曲想に関心をもつ。 ・「荒城の月」, 「早春賦」のCDを聴いて印象などを自由に話し合う。			
2	◆ …………… ○ …………… ・ ……………	知※ (ワークシート)	思※ (ワークシート)	
3	◆ …………… ○ …………… ・ ……………	技※ (歌唱)		態※ (観察)

※全員の学習状況を記録に残す場面として設定する。

8 本時案

- (1) 本時のねらい
- (2) 展開 (○分)

学習活動	時間	指導上の留意点	評価 (方法)

美術科（図画工作）学習指導案（例）

令和〇年〇月〇日〇曜日

第〇校時 〇時〇分～〇時〇分

〇年〇組 〇名

指導者 〇〇 〇〇

1 題材名

題材の入り口。どんな活動を通して、どんなことが学べるのかが分かる題材名にする。「焼き物をつくろう」→「おもてなしの器をつくろう」

2 題材の目標

- ・
- ・
- ・

本題材を通して児童生徒に身に付けさせたい力を指導者の立場で記述。「～できるようにする」等

(知識及び技能)
(思考力、判断力、表現力等)
(学びに向かう力、人間性等)

3 題材設定の理由

(1) 教材観

○題材の本質的な部分、特徴、題材としての価値、付加価値について述べる。

- ・本題材でのねらいや、取り扱い意義や扱うことで得られる学習効果。
- ・本題材が、指導するクラスの児童生徒に適していると考えられる根拠。

(2) 学習者観（児童生徒観）

○学級の児童生徒の本題材に関係する分野についてのレディネスや学習状況。

- ・これまでの美術の学習や日常での観察、アンケート等に基づいて記述。
- ・美術の授業に対して、どのような態度で臨むことができているか、どれだけの表現の力や鑑賞の能力を身に付けているか。また、どのような能力や態度を身に付ける必要があるか。

(3) 指導観

○本題材で目指す力を身に付けさせるための指導の手立て、工夫を書く。

- ・指導法や制作上の技法や素材、学習形態等の工夫によってどんな力が身に付く（できるようになる）と考えられるか。
- ・制作途中での見直しや、完成作品の活用、展示の工夫、指導者や児童生徒による相互評価によって得られる学習効果。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「知識」について ・文末は、学習の状況进行评估することを踏まえて「～している」とする。	・文末は、学習の状況进行评估することを踏まえて「～している」とする。	・文末は、学習状況进行评估することや児童の意志的な側面も評価することから「～しようとしている」とする。
「技能」について ・文末は、学習の状況进行评估することを踏まえて「～している」とする。		

5 指導と評価の計画 (総時数●時間)

【 小学校 図画工作例 】

時	学習活動	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・のこぎりの使い方を知り、木をいろいろな長さや形に工夫して切る。 ・のこぎりを適切に扱う。 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				【観察】
2						<input type="checkbox"/>	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・切った(木片)を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。 			<input type="checkbox"/>			【観察】 【対話】 【作品】
4				<input type="checkbox"/>			
5	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに木を切って組み合わせるなどしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 ・作品カードに自分の作品のよさや面白さ、表し方の工夫などについて書く。 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				【観察】 【対話】 【作品】
6	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。 				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	【観察】 【対話】 【作品】 【作品カード】

【 中学校 美術例 】

時	学習活動	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「花」がテーマの作品を鑑賞し、作者の意図や表し方などについて意見を述べ合いながら、主題と表現の工夫との関係について考え、形や色彩などが感情にもたらす効果や全体のイメージで捉えることを理解する。 ・花を選んだ理由を考え、花や葉の形や色彩の特徴などから感じたことなどを言葉で書き表しながら、主題を生み出す。 ・主題を基に、画面全体と花や葉との関係を考え、創造的な構成を工夫し構想を練る。 	<input type="checkbox"/>					【ワークシート】 【発言の内容】 【活動の様子】 【アイデアスケッチ】
2				<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
3		<input type="checkbox"/>					
4	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩などが感情にもたらす効果などを考えながら、自己の構想に基づき、筆致や濃度等を変え、様々な表し方を試す。 ・自分の意図に応じて、水彩絵の具や筆などの使い方を工夫して表す。また、制作の途中に鑑賞を行い、他者の作品を見たり自分の意図を説明したりすることで、より表したいものを明確にしていくなどしながら作品を完成させる。 		<input type="checkbox"/>				【試作の作品】 【活動の様子】 【制作途中の作品】 【完成作品】
5				<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
6			<input type="checkbox"/>				
7	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの完成作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合う。 ・第一次とは異なる「花」をテーマにした作家の作品を鑑賞し、作品の主題と表現の関係や意図と工夫などについて自分の活動した体験から、新たな見方や感じ方を広げる。 				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	【ワークシート】 【発言の内容】 【活動の様子】

※ 児童生徒の学習状況を把握して指導に生かす。 全員の学習状況を把握し、記録に残す。

6 本時案

(1) 題目：(例) 切った木を組み合わせて ※その時間に学習する内容を端的に示す。

(2) 本時のねらい

この1時間で、①どのような学習を通して、②児童生徒にどのような内容を学ばせ、③どのような資質・能力を育成することを目指すのかを指導者の立場で書く。

(3) 展開

学 習 活 動	時間	指 導	●評価規準・【評価方法】
1 ※児童生徒の学習活動 『～する。』		○ ・ ※教師の活動は『～する。』 児童生徒に対する指示は 『～させる。』	①評価規準・評価方法を書く。 ※評価項目は1単位時間に1～2項目が現実的。 (多すぎても評価できない) ②学習形態や資料等についても書く。

1時間の流れのなかで、ねらいと学習活動、指導、評価規準に整合性がある

※「題材の評価規準」や「指導と評価の計画」「本時案の展開」等の様式は学校や研究会に合わせてアレンジしてよいが、以下のことに留意して作成すること。

- ①指導内容が「題材の目標」や「題目」を実現するための手立てになっているか。
- ②指導したことを評価する形で評価規準が設定されているか。

第1学年 保健体育科学習指導案

日時：令和 年 月 日（ ） 校時
場所：〇〇市立〇〇中学校 体育館
対象：1年〇組 〇名
指導者：（職名）〇〇 〇〇

1 単元名 球技：ゴール型（サッカー）

2 単元の目標

（1） 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。

ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。 （知識及び技能）

（2） 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

（思考力、判断力、表現力等）

（3） 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 （学びに向かう力、人間性等）

「評価の観点」と混同しない。学習指導要領解説の口囲みを参考に示す。語尾は、指導者の立場で書き、「～できるようにする。」と記載する。

※学習指導要領解説から、（知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力、人間性等）の指導内容別に示す。→「評価の観点（知識・技能）（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）」と混同しないこと

3 指導にあたって

（1） 単元観

①指導者から見た特性

- ・運動の形式や技術の仕組み、系統性など
- ・生徒の心身の発達に与える効果など

②生徒から見た特性

- ・その運動を学ぶ意義やその運動をどのように楽しめるかなど

（2） 生徒観

①学習の経験状況、興味・関心、意欲、学び方の状況、技能の習得状況

②体力実態、質問紙調査結果、男女数

③本単元における生徒のよさと課題の整理

※体力実態、質問紙調査結果（客観的な数値も交えて）、男女数については、内容を精査し記載する。

（3） 指導観

①「単元観」「生徒観」を踏まえた指導の方向性及び具体的な指導の手立てなど

②（研究テーマとの関連）

4 内容のまとめりごとの評価規準及び単元の評価規準 第1学年及び第2学年 例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
まとめりごとの 評価規準 内容の	<p>※「指導と評価の一体化」 (国立教育政策研究所)から引用すること</p>			
単元の評価規準	<p>○知識</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p> <p>※ネット型、ベースボール型は省略</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>②健康・安全に留意している。</p>

◎単元の評価規準については、該当学年の評価規準を選択し、記載する。

- ・知識については、文末を「～について、言ったり書いたりしている。」あるいは、「～について、学習した具体例を挙げている。」として、評価規準を作成する。
- ・技能については、文末を「～(行い方・対処)について、(～が)できる。」として、評価規準を作成する。
- ・思考・判断・表現については、文末を「～している。」として、評価規準を作成する。
- ・主体的に学習に取り組む態度については、意思や意欲を育てるという情意面の例示に対応し、文末を「～しようとしている。」として、評価規準を設定する。ただし、健康・安全に関する例示については、意欲を持つことにとどまらず実践することが求められているものであることから、「～に留意している。」「～を確保している。」として、評価規準を設定する。

5 指導と評価の計画（1年生）

（1）単元の指導と評価計画 7時間目 例

学習評価の流れ	10	オリエンテーション ボール慣れゲーム	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動								最終リーグ戦Ⅱ 単元のまとめ
	20		ボール操作の反復練習								
	30		ボール操作 シュート パス トラップ	空間に走り込む などの動き ボールとゴール	課題の確認と解決の練習 ボール操作 空間に走り込む			簡易ゲーム①の修正 最終リーグ			
	40		シュートゲーム (記録の活用)	グリッド突破ゲーム (仲間の助言)	簡易ゲーム① 人数・コートルール等の簡易化						
	50		整理運動・学習の振り返り・次時の確認								
評価機会	知識	①	(②)	(②)		②				総合的な評価	
	技能			①		②	③				
	思考・判断・表現						②	①	③		
	態度		②		①						

※評価は原則1時間に1~2つとし、複数の評価を設定する場合には、評価方法が重複しないように工夫する。
 ※「技能」及び「思考・判断・表現」の評価は、指導後一定時間経過後の評価をする方がより確実。
 ※「知識」及び「態度」の評価は、指導した日に評価することも可能。
 ※評価ための見とりが、十分でなかったものを8時間目で見直す。【例】5時間目の技能を8時間目に再度評価

（2）指導と評価の計画（1年生）例

時間	主な学習活動	知	技	思	態	評価方法等
1		①				カード
2		(②)			②	観察・カード
3		(②)	①			観察・ICT
4	空間に走り込むなどの動き				①	観察
5		②	②			カード・観察
6			③	②		観察・ICT
⑦	課題の確認と解決の練習 ・ ボール操作			①		観察・ICT
8						
9				③		カード・観察
10						観察・カード

※学習活動には主な生徒の活動を記述。
 ※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること。

6 具体的な指導内容と「単元の評価規準」（1年生）例

知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
知識	技能		
<p>ゴール型球技は、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことが楽しい運動であること。</p>	<p>ゴール方向に守備者のいない位置に移動した時にシュートを打つこと。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。</p>	<p>成功例、つまずき例などの事例や、シュート、パス、キープのポイントを提示し、仲間の動きと比較し、伝えること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p>	<p>仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動したりすることにつながるという目的に適した仲間との関わり方があること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>① 練習の補助をたり仲間へ助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p>
<p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p>		<p>※学習指導要領解説を参照のこと</p>	
<p>（上）指導すること、（下）評価すること、という原則。</p> <p>※4にある「単元の評価規準」を用いる。</p>			

7 本時の展開（7時間目／10時間中）

※教師の立場で記入する。

(1) 本時のねらい

- ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けての運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(2) 本時の学習評価

- ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。

※評価規準の判定基準「B」を明記すること。

(3) 学習過程

時間	学習内容及び学習活動	評価規準及び評価方法
はじめ ○分	1 前時を振り返る。 2 用具の準備、準備運動 3 本時のねらいと評価項目の確認 めあて：○○○○○○○○○○○○○○○ しよう（※生徒の立場で書く） 評価：	
なか ○分	4 活動Ⅰ ・提示されたシュート、パス、キープのポイントの成功例、つまずき例などの事例を仲間の動きと比較 チームごと ◇ボール操作 ◇空間に走り込む (A鳥かご・Bセンタリング・C2対1・Dシュート練習) ◆動きを撮影し課題や良いところを伝える。 5 活動Ⅱ ・簡易ゲーム① 人数・コートルール等の簡易化 ◆動きを撮影し課題や良いところを伝える。	おおむね満足 ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 十分満足 ・提示された動きのポイントや場面ごとでのつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 努力を要する生徒への手立て ・例(動画)を示し、動きのポイントを確認させる。その上で、伝えることに気付かせる。
まとめ ○分	6 整理運動、用具の片付け 7 本時の振り返り	※「C」となる生徒の姿を想定し、具体的な手立てを記入する

※評価規準の判定基準「B」を明記すること。
※目指す姿がB評価のため、1番上を書く。

※「A」は「B」より質的な高まりを意識して設定する。

※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること

※「C」となる生徒の姿を想定し、具体的な手立てを記入する

○はじめ→(導入) なか→(展開)でも良い。

※本時のねらい、生徒のめあて、学習内容及び活動、評価規準及び評価方法を関連付けること

※ボリュームイメージ案(全5ページ)

- (1ページ) 1~3
- (2ページ) 4、5(1)
- (3ページ) 5(2)
- (4ページ) 6
- (5ページ) 7

- 1 指導する内容 = 【学習指導要領解説(例示)】を参照
- 2 指導する内容 = 評価の内容
- 3 例示にある内容をどんな方法で教えるのか = 指導資料集(文部科学省)等の指導書を参照。

第1学年 保健体育科学習指導案

日時：令和 年 月 日（ ） 校時

場所：〇〇市立〇〇中学校 体育館

対象：1年〇組 〇名

指導者：（職名）〇〇 〇〇

※「大項目」を単元・内容のまとめりとしてとらえる。

例：大項目「心の健康」

1 単元名 「心の健康」 第1学年 （2）心身の機能の発達と心の健康

※内容のまとめり第1学年 （2）心身の機能の発達と心の健康

2 単元の目標

- (1) 心の健康について、理解することができるようにするとともに、ストレスに対処する技能を身に付けることができるようにする。 (知識及び技能)

※技能がない場合は、知識のみ。学習指導要領解説に合わせる。

- (2) 心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて、解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)

- (3) 欲求やストレスへの対処などの心の健康について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領解説の口囲みを参考に示す。語尾は、語尾は、指導者の立場で書き、「～できるようにする。」と記載する。

※学習指導要領解説から、(知識及び技能)(思考力、判断力、表現力等)(学びに向かう力、人間性等)の指導内容別に示す。→「評価の観点(知識・技能)(思考・判断・表現)(主体的に学習に取り組む態度)」と混同しないこと。

3 指導にあたって

(1) 単元観

- ①指導者から見た特性
②生徒から見た特性

※本単元における生徒のよさ、課題の整理や質問紙の調査結果(客観的な数値も交えて)、男女数については、内容を精査して記載する。

(2) 生徒観

- ①学習の経験状況、興味・関心、意欲、学び方の状況、技能の習得状況
②本単元における生徒のよさ、課題の整理や質問紙の調査結果(客観的な数値も交えて)と、その分析

(3) 指導観

- ①「単元観」「生徒観」を踏まえた指導の方向性及び具体的な指導の手立てなど
②(研究テーマとの関連)

4 内容のまとめりごとの評価規準及び単元の評価規準 例 第1学年及び第2学年

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
まとめりごとの 評価規準 内容の	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #f0d0d0;"> ※「指導と評価の一体化」(国立教育政策研究所)から引用すること </div>		
単元の評価規準	①心は、知的機能、情意機能、社会性等の精神機能の総体として捉えられ、それらは生活経験や学習などの影響を受けながら、脳の発達とともに発達することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ②自己を客観的に見つめたり、他人の立場や考え方を理解できるようになったりするとともに、自己の形成がなされることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ③略 ④略 ⑤略 ⑥リラクセーションの方法等がストレスによる心身の負担を軽くすることについて、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、それらの対処の方法ができる。	①欲求やストレスへの対処における事柄や情報などについて、個人生活と関連付けて、自他の課題を発見している。 ②欲求やストレスへの対処について、習得した知識や技能を自他の生活と比較したり、活用したりして、心身の健康を保持増進する方法やストレスへの適切な対処の方法を選択したりしている。 ③欲求やストレスへの対処について、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。	①欲求やストレスへの対処について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。

- ・ 知識については、文末を「～について、言ったり書いたりしている。」あるいは、「～について、学習した具体例を挙げている。」として、評価規準を作成する。
- ・ 技能については、文末を「～(行い方・対処)について、(～が)できる。」として、評価規準を作成する。
- ・ 思考・判断・表現については、文末を「～している。」として、評価規準を作成する。
- ・ 主体的に学習に取り組む態度については、文末を「～しようとしている。」として、評価規準を作成する。

◎単元の評価規準については、学習指導要領解説の例示を参考に、該当学年の評価規準を選択し、設定する。

時間	主な学習活動	知	思	態	評価方法等
1	・精神機能の発達について、健康に関する資料などを見て理解する。 ・自分の心が、どのように発達してきたのかワークシートにまとめる。	①			学習カード
2	・自分について説明する文を作成し、自己を客観的に見つめる。 ・自己形成について、自分の体験を基に考える。	②	①		観察 学習カード
3	略	③			
4	略	④	②		
5	略	⑤	③		
⑥	・ストレスによる心身の負担を軽くするようなリラクゼーションについて、意義や手順、行い方のポイントを確認しながら実習を行う。 ・リラクゼーションの方法について、実習を通して理解したことをワークシートにまとめる。	⑥		①	観察 (ICT) 学習カード (授業後)

※「主体的に学習に取り組む態度」については、単元全体で評価をしていくため、破線で示している。

※例

評価の材料として、観察時に実習時の動きを撮影する。

6 具体的な指導内容と「単元の評価規準」(1年生) 例

知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
知識	技能		
指導内容	リラクゼーションの方法等を取り上げ、ストレスによる心身の負担を軽くするような対処の方法ができるようにすること。	指導内容	自他の健康の保持増進や回復のために主体的、協働的に活動すること。
↓		↓	
単元の評価規準	リラクゼーションの方法等がストレスによる心身の負担を軽くすることについて、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、それらの対処の方法ができる。	単元の評価規準	欲求やストレスへの対処について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。

(上) 指導すること、
(下) 評価すること、
という原則。

※4にある「単元の
評価規準」を用い
る。

※学習指導要領解説を参照のこと

7 本時の展開（6時間目／6時間中）

※教師の立場で記入する。

(1) 本時のねらい

- ・リラクセーションの方法等を取り上げ、ストレスによる心身の負担を軽くするような対処の方法ができるようにする。
- ・自他の健康の保持増進や回復等のために主体的、協働的に活動する。

(2) 本時の学習評価

- ・リラクセーションの方法等がストレスによる心身の負担を軽くすることについて、理解したことを言ったり書いたりしていると同時に、それらの対処の方法ができる。

(知識・技能)

- ・欲求やストレスへの対処について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 学習過程

時間	学習内容及び学習活動	評価規準及び評価方法
はじめ ○分	1. 友達の発表やワークシートで、前時に学習した内容について確認をする。 2. 教師の説明により、本時の学習内容について確認をする。 めあて：	※評価規準の判定基準「B」を明記すること。 ※目指す姿がB評価のため、1番上に書く。
なか ○分	3. ストレスによる心身の負担を軽くするようリラクセーションについて、体ほぐしの運動や呼吸コントロールでのリラクセス法を取り上げ、意義や手順、行い方のポイントを確認しながら実習を行う。 (本時で扱う対処方法) ・体ほぐし運動 ペアストレッチ 脱力運動 (寝による・腕ぶら) ・呼吸法 腹式呼吸	おおむね満足 十分満足 努力を要する生徒への手立て ・簡単なリラクセーションを行い、効果があるか考えることができるよう促す。
まとめ ○分	7 本時の振り返り ※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること	※「C」となる生徒の姿を想定し、具体的な手立てを記入する

※本時のねらい、生徒のめあて、学習内容及び活動、評価規準及び評価方法を関連付けること

※ボリュームイメージ案（全5ページ）

- (1ページ) 1～3
- (2ページ) 4、5
- (3ページ) 6
- (4ページ) 7

- 1 指導する内容 = 【学習指導要領解説（例示）】を参照
- 2 指導する内容 = 評価の内容
- 3 例示にある内容をどんな方法で教えるのか = 指導資料集（文部科学省）等の指導書を参照。
この順番で考えると指導内容が絞られる。

学習指導案の形式例（中学校 技術・家庭科 家庭分野）

〇〇中学校 技術・家庭科（家庭分野） 学習指導案

令和〇〇年〇月〇日〇曜日

第〇校時 〇時〇分～〇時〇分

〇年〇組 〇名

指導者 〇〇 〇〇〇

1. 題材名

- ・題材：指導内容のまとめり。

→技術・家庭科（家庭分野）においては、題材を構成し、分野の目標の実現を目指す。

題材の設定に当たっては、各項目及び各項目に示す指導事項との関連を見極め、相互に有機的な関連を図り、系統的及び総合的に学習が展開されるように配慮する。

- ※ 該当する内容（項目）を全て明記する。

（例）題材名 「健康・快適で持続可能な衣生活」

「B衣食住の生活」（４）「衣服の選択と手入れ」ア及びイ

（５）「生活を豊かにするための布を用いた製作」ア及びイ

2. 題材設定の理由（指導の立場）

- ※ 題材を設定した趣旨を、生徒観・教材観・指導観の３つの観点から記述する。

- ※ ３つの観点がバラバラなものにならないようにする。

・生徒観

題材に関連する生徒の日常的生活経験及び教師から見た生活実態における問題点などを明らかにする。また、授業展開において予想される生徒の興味・関心が、発達段階や生徒の学習状況から見て適切かどうかなどについて記述する。

・教材観

選定した題材を学習させることの意義と教育的価値について、社会的動向、家庭生活との関連から明らかにし、その要因を分析して記述する。生徒に付けたい力もこの中に含まれる。また、関連する既習内容や小学校との関連性、他教科などとの関連から題材の役割を明らかにする。

・指導観

生徒観・教材観との関連を基盤に、本題材の指導にあたって配慮すべき事項について述べる。何をねらいとし、どのような指導手順で、特色ある指導を展開しようとするのか、という指導方針あるいは独自の視点や工夫した資料・教具などに関する記述を含む。

3. 題材の目標

- ※ 学習指導要領に示された教科の目標並びに題材で指導する項目及び指導事項を踏まえて設定する。
- ※ 題材の指導を通して、どのような資質や能力を育成したいか「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から示す。
- ※ **指導者の指導の意図や育成を目指す資質・能力を明確にする**ため、指導者の立場で記述する。

<記述例>

- (1) 衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用、個性を生かす着用、衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用の必要性、日常着の手入れ及び製作するものに適した材料や縫い方、用具の安全な取扱いについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとするようにする。(学びに向かう力、人間性等)

4. 題材の評価規準

- ※ 「内容のまとまりごとの評価規準(例)」から題材において指導する項目及び指導事項に関する部分を抜き出し、評価の観点ごとに具体化、整理・統合するなどし、3つの観点別に作成する。
- ※ 「内容のまとまりごとの評価規準(例)」については、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所教育課程研究センター)を参照のこと。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・～について理解している。 ・～について理解しているとともに、適切にできる。	・～について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・～について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

文末表現の例

6. 本時の展開 (○ / ○ 時間)

(1) 題目 ※小題材名を基に端的に表す。 例「よりよい食生活を目指して」など

(2) 本時のねらい (目標) : ~を~して (に気付いて・を通して) ~することができるようにする。

本時のねらいが、
主たる評価となる

- ※指導者の立場で書く。
- 本時1時間のねらう内容を具体的に記述する。
- 生徒側からの表現にし、次の点について具体的に記述するとよい。
- ※ 追究の対象・学習の対象・学習の材料
- ※ 目のつけどころ・力となるところ など

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法等
	<p>※学習者 (生徒) の立場で書く。</p> <p>※ねらいを達成するために行う活動を、活動のまとまりで書く。</p> <p>※文末表現の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合う ・出し合う ・考える ・作る ・さぐる ・調べる など <p>※1, 2, 3…の番号をつける。(順序性がある)</p>	<p>※指導者の立場で書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○や・で表す。 ○ : 中心的な働きかけや手だて (指導内容)。 ・ : 出方の予想や補助的な働きかけ。 <p>※記述する事柄の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のきっかけ作り。 ○問いかけ (課題提示)。 ○各自での試行・作業のさせ方。 ○どの段階で発表させるか。 ○答えや根拠の整理・まとめ方。 ○ずれ・矛盾・疑問点などを明らかにしていく方法。 ○個に応じた多様な方法を想定しておき、実際に即して指導していく方法。 ○よりよい考えを選び出したり、作り上げていくときの手だて。 ○発展・応用していく方法。 ○次の時間へのつなぎ方。 等 <p>本時の課題は <input type="text"/> で囲む。</p> <p>※教師の一方的な指導と思われる記述ではなく、生徒の主体的な姿が現れた記述にする必要がある。</p>	<p>※本時のねらいを確認する箇所はどこかを意識する。</p> <p>〔本時のねらいと評価場面・評価方法の整合性を確認すること。〕</p> <p>※評価方法、評価の観点及び番号</p> <p>〔指導と評価の計画に記載したものを明記する。〕</p>
○	<p>(例)</p> <p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <p style="text-align: center;"><input type="text"/> 衣服選択の際の課題を考えよう</p>	<p>○衣服を選ぶ際のことを振り返らせ、困った経験を発表させる。</p>	
○	2 …		(例)
○	3 …		■評価方法
○	4 …		【学習カード】
○	(例)		思考・判断・表現①
○	5 本時の学習のまとめをする。	○次時への意欲につながるようにする。	

- ◇ 生徒指導を中心に据えての教科学習であれば、自主性・自己決定・共感的雰囲気などを考えた活動が盛り込まれた事柄が書かれているようにする。また、「指導上の留意点」とするよりも、「支援の方法」「指導・援助の留意点」などとし、上記のことに配慮した内容になるようにする。
 - ◇ 活動の場のあり方を中心に研究していれば、「どのような活動を」「どのような目的で」「どのように仕組むか」などが書かれていなければならない。評価のあり方の研究であれば、「どこで」「何のために」「どのように評価して」「それをどのように生かすか」などが書かれていなければならない。
 - ◇ 評価の観点については、「生徒指導上の配慮点」「評価とその生かし方」「活動の場での配慮点」などに替えて書くことも考えられる。
- ★ 学校独自の学習過程がある場合は、それに沿っていく。

(4) 本時の評価

- 本時の学習活動における具体的評価規準を記載する。
また、生徒の学習状況の把握と支援という立場から、評価規準とともに、十分満足（A）及びおおむね満足（B）の状況と、努力を要する生徒への手だてを記載する。

評価規準	十分満足（A）	おおむね満足（B）	努力を必要とする生徒への手だて	評価方法
(例) ・健康・快適で持続可能な衣生活を送るために、衣服の選択、手入れ、再利用などについて、問題を見いだして課題を設定している。 (思考・判断・表現) ・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・学習カード

技術・家庭科（技術分野）学習指導案（例）

令和 年 月 日
立 中学校
年 組（ 人）
指導者

1 題 材 名 【例】情報の技術でよりよい生活や社会の発展を目指そう
※題材を貫く学習課題をイメージして設定する。

2 題材設定の理由

※（１）～（３）内容が関連するように記述する。

（１）生徒について

※題材に関連する生徒の日常的な生活経験及び指導者から見た生活実態における問題点などを明らかにし、その要因を分析して記述する。（アンケート調査等を活用する）

※題材の学習展開において、予想される生徒の姿が発達段階や生徒の学習状況から見て適切かどうかなどについて記述する。

（２）題材について

※選定した題材を学習させることの意義と教育的価値、生徒に身に付けたい資質・能力について、社会的動向、家庭生活との関連から明らかにする。

（３）指導について

※生徒観・題材観と関連させ、本題材の指導にあたって配慮すべき事項について記述する。

※ねらいや学習の展開において、指導の工夫や資料・教具の活用などについて記述する。

3 題材の目標

※指導者の立場で記述する。

※「学習指導要領に示された分野の目標」並びに「題材で指導する指導事項及び解説の各内容に示されたねらい」を整理・統合して設定する。

【例】 ○○○の技術の見方・考え方を働かせ、○○○な活動を通して、○○○な理解を図り、○○○に係る技能を身に付けさせ、○○○する力や○○○する態度を育成する。

【題材目標の構造】

- | | |
|----------------|----------------------|
| ①内容 | _____の技術の見方・考え方を働かせ、 |
| ②学習活動 | _____な活動を通して、 |
| ③知識 | _____な理解を図り、 |
| ④技能 | _____に係る技能を身に付けさせ、 |
| ⑤思考・判断・表現 | _____する力や |
| ⑥主体的に学習に取り組む態度 | _____する態度を育成する。 |

4 題材の評価規準

※技術分野の評価の観点の趣旨を基に、[国立教育政策研究所『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（令和2年3月）](#)の「内容のまとめりごとの評価規準（例）」の要素を加えるなどして設定する。

【例】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【例】生活や社会で利用されている〇〇〇との関わりについて理解しているとともに、〇〇〇ができる技能を身に付けている。	【例】生活や社会の中から〇〇〇に関わる問題を見いだして課題を設定し、〇〇〇するなどして、〇〇〇する力を身に付けているとともに、〇〇〇の技術の評価し、〇〇〇する力を身に付けている。	【例】〇〇〇の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、〇〇〇の技術を工夫し創造しようとしている。

5 題材の指導・評価計画（総時数〇〇時間）

※題材の内容や時間のまとめりを見通しながら、学習の見通しを立てたり、振り返ったりする場面、対話によって考えを広げ深めたりする場面等をどこに設定し、どのように組み立てるかを考える。

※学習のまとめりを踏まえて、無理なく適切に評価できるような場面を検討する。その場面において、学習の目標を達成した生徒の姿をより明確にするために、学習活動や評価方法も併せて検討しながら、評価規準の具体化、整理・統合を図る。

※国立教育政策研究所「[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)」（令和2年3月）を参照する。

【例】

時間 指導 事項	学習活動	評価規準 ◆評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2 A(1) イ	・〇〇〇について調べる。		・〇〇〇に込められた工夫を読み取り、〇〇〇の技術の見方・考え方に気付くことができる ◆レポート	・進んで〇〇〇の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 ◆ワークシート
1 【本時】 A(1) ア	・〇〇〇を行う。	・〇〇〇を説明できる。		

6 本時案 (○/○時間)

(1) 題 目 ※本時の学習内容を端的に示す。例「チャットツールの改善」など。

(2) ねらい ※「学習内容(～について) + 学習活動(～を通して) + 資質・能力(～できるようにする)」

(3) 展 開

【例】 ※「課題」と「まとめ」を入れる場合は四角で囲む。「振り返り」は項目等を記述する。

学習活動	時	指導内容及び指導上の留意点	◆評価方法
※生徒の立場で書く。 1 ○○○を確認する。	10	※指導者の立場で書く。 ・○○○を説明する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて</div>			
2 ○○○に取り組む。	30	・○○○を制作させる。	◆ワークシート (思考・判断・表現)
3 ○○○の振り返りをする。	10	・○○○を考えさせる。	

(4) 本時の評価等 ※ねらいや評価計画との整合性を確認する。

【例】

評価の観点	おおむね満足 (B)	努力を要する 生徒への手立て	特別な支援を要する 生徒への配慮
(例) 知識・技能	○○○を組み合わせ、○○○の制作や動作の確認ができる。	○○○の制作方法について、具体例を提示し、助言・指導をする。	あらかじめ用意した幾つかの見本となるプログラムを準備し、一部を自分なりに改良できるようにする。

第○学年英語科学習指導案（例）

令和○年○月○日（○）
 第○校時 ○時○分～○時○分
 ○年○組 ○○名
 指導者 ○○ ○○

1. 単元名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
 (教科書名○○○○ Lesson○ ○○○○○)

* 「～できる」「～しよう」の形で、この単元での目標を生徒と共有する言葉で書く。「何ができるようになるのか」を明らかにする

2. 単元について
 (1) 教材について
 (2) 生徒について
 (3) 指導について

* 教材観：題材の内容や主たる言語材料を活用し、言語活動を通して育成する単元を通して身に付けさせたい力（教材の価値にとどまらない）
 * 生徒観：単元を通して身に付けさせたい力に関わる生徒の実態や課題
 * 指導観：実態や課題を踏まえ、今回の単元で指導上特に工夫する点

3. 単元の目標

* 単元の目標は、各単元で取り扱う題材、言語の特徴やきまりに関する事項（言語材料）、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに即して設定する。
 * 単元の目標の作成に当たっては、本県が新大分スタンダードに基づいた授業改善を推進していることを踏まえ、指導者の指導の意図や育成を目指す資質・能力を明確にするため、指導者の立場で記述する。
 ⇒ 文末表現を「～できるようにする。」として示す。

4. 関連する学習指導要領における領域別目標

(例) 書くこと	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。
-------------	--

5. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(例) 書くこと	<知識> 【言語材料】について理解している。 <技能> 【事柄・話題】について聞いたり読んだりしたことについて、【内容】を、【言語材料】などを用いて書く技能を身に付けている。	【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて <u>書いている。</u>	【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて <u>書こうとしている。</u>

* 外国語科では、思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度には深い関わりがあることから、太字下線部のように文末を対の形で示し、両者を一体的に評価することができることとしている。
 * 国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（令和2年6月）を参考に、評価規準を作成する。

6. 指導と評価の計画（○時間扱い）

時間		学習活動	知	思	主	評価規準【評価方法】
1	①	② スライドで示した人物について、ペアで説明し合う。その後、後置修飾の特徴やきまりを確認する。 ③ 自己目標を設定する。	○			後置修飾の特徴やきまりについて理解している。 【記述分析】 【行動観察】
2	①	② アメリカの黒人差別の歴史に関する教科書の内容理解を通して、後置修飾の意味や用法を知る。 ③ 本文を引用しながら英文を書くための表現方法を学ぶ。	○			・ 後置修飾の意味や用法（動詞の-ing形、過去分詞形）を理解している。【記述分析】 ・ 引用の仕方を理解している。【記述分析】
8	①	② What can we learn from the Great people? についてのスピーチをする。 ③ 同様のテーマで英作文を作成し、提出する。 ④ 自己目標の達成状況を振り返る。	◎	◎	◎	<知識> 後置修飾の特徴やきまりを理解している。【記述分析】 <技能> 世界の偉人の物語について読んだり聞いたりして学んだことについて、後置修飾を用いて書く技能を身に付けている。 【記述分析】 <思考・判断・表現> 《よりよい世界をつくるためにできることを交流するために、世界の偉人の物語を読んだり聞いたりして、考えたことや感じたこと、その理由などを、英文を引用したり内容に言及したりしながら文章を》書いている。【記述分析】 <主体的に学習に取り組む態度> 《同上》書こうとしている。【記述分析】【行動観察】
後日		ペーパーテスト（定期テスト）	◎	◎	◎	

- * 単元計画は、学習到達目標を参考に最終的な言語活動における生徒の姿を具体的にイメージした上で、バックワードデザインで構成する。
- * コミュニケーションの目的を達成する上で、いかに文法が使われているかに着目させて、生徒の気づきを促す指導を行う。
- * 生徒の学習状況を見届けて、次の指導に生かす評価を○、全員の学習状況を記録に残す評価を◎で示している。単元計画を作成する際は、次の指導に生かす評価○の評価規準を空欄にすることも考えられるが、実際の指導を行う上では、ねらいに即して生徒の学習状況を確実に把握し、活動させているだけにならないように十分留意する。

* 単元の目標を達成するために、この時間に身に付ける力（本時のねらい）を、指導者の立場で具体的に記述する。⇒文末表現を「～できるようにする。」として示す。

【基本】「学習内容（～を、～について）、学習活動（〇〇を通して、〇〇でまとめて、〇〇と比べて）、育成を目指す資質・能力（△△できるようにする。）」

（例1）「尊敬する人物について、伝え合った内容を整理する活動を通して、まとまりのある英文を書くことができるようにする。」

（例2）「関係代名詞の用法を理解し、伝え合った内容を整理する活動を通して、尊敬する人物についてまとまりのある英文を書くことができるようにする。」

7. 本時案 (○/○)

(1) 題目 ※本時の学習内容を端的に示す。例「キング牧師の物語から学んだこと」など

(2) 本時のねらい

(3) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
5	1. Greeting	○	
10	2. Warming-up	○	
		キング牧師から学んだことを自分の経験を交えて書こう。	
30	3. Activity	○	
5	4. Reflection	○	

* 本時の展開を構想する上で、次のような点に留意することが大切である。

- ・身に付けさせたい力を明確に設定しているか（付けたい力）
- ・実際のコミュニケーションの場面を設定した言語活動を展開しているか（相手意識、目的意識）
- ・教科書の本文やその内容を言語活動の中で活用しているか（内容に踏み込んだ言語活動）

第3学年英語科学習指導案（例）

令和〇年〇月〇日（〇）
第〇校時 〇時〇分～〇時〇分
3年〇組 〇〇名
指導者 〇〇 〇〇

1. 単元名 よりよい世界をつくるために私たちができることを考え、偉人を紹介する記事を書こう
(NEW CROWN ENGLISH SERIES 3 Lesson 6 I Have a Dream)

2. 単元について

本単元では、キング牧師の生涯と彼の夢を通して、アメリカの公民権運動について学ぶことができる。キング牧師の行動や思いを読み取り、それらについて意見交換をすることで、人権についての考えを深めることができる。また、キング牧師の物語をきっかけに、歴史上の人物の行動や言葉について学び、「よりよい世界をつくるためにできること」というテーマについて、一人一人の考えを深めることができる単元である。

文法事項としては、後置修飾を学習する。前単元で学習した関係代名詞と同様に、後置修飾を使用することで、書き手の伝えたい内容をより正確に、具体的に記述できるようになり、自己表現の幅を広げることができる言語材料であるといえる。本単元では、自分が選んだ偉人を紹介する活動を設定し、英文を引用したり自分の経験と関連付けたりしながら文章を書く力を身に付けさせたいと考える。

生徒がこれまで学習してきた英作文のテーマは、身近な話題や、自分に興味のあることを題材にすることが多く、社会的な話題について考えたり、読んだことについて感想を書いたりする経験は少ない。また、これまでの学習の中で、自分の意見を順序立てて構成して表現することは繰り返し行ってきたが、英文や資料を引用しながら書くことはできていない。そこで、生徒が適切な表現を選択し、客観性や論理性を意識して事実や情報を有効に伝えることができるよう、自分の思いや意見を根拠づけたり、理由を補足したりする方法を学ぶことが必要である。

「書くこと」については、定期テストの結果から平均得点率が56%となっており、他の領域と比べても課題があることがわかる。「書くこと」に関するアンケートでも、「遠回しな表現ではなく、学んだ文法や表現を使ってより正確に自分の言いたいことを表現したい」「言いたいことを表現するための単語の選択や語彙に関する知識をもっと身に付けたい」などといった記述が多く見られた。自分の思いをより正確に表現するためにも、センテンスレベル、またはパラグラフレベルで読み手を意識した書き方の工夫を身に付けることが必要である。

指導にあたって、上に述べた生徒の課題に対応するため、以下の3点をポイントに挙げる。

- ① 単元を通したテーマとなる問いを設定する。社会的な話題に対しても意欲的な読みの活動へとつながるよう、学習の見通しをもたせつつ、自分事として教材と向き合うことができるようにする。具体的には、第1時に What can we do to make the world better place?と問いかけ、その手がかりとして世界の偉人から学ぶことを提案する。生徒一人一人が選ぶ偉人の紹介を単元のゴールとし、そのために、教科書の学習を通してキング牧師の物語を学ぶことを伝える。また、単元後半のReadの活動では、キング牧師の物語「I Have a Dream」から学べることを考えさせることで、目的を明確にした意欲的な読みの活動へとつなげたい。
- ② 客観性や論理性を意識して事実や情報を有効に伝えることができるよう、英文を引用しつつ、事実と意見を分けて読み手にわかりやすいような書き方を意識させる。英文を読み進める中で、

自分の感情を動かされた部分や、新たに知った部分に下線を引かせ、その部分を引用して理由と共に表現する練習を行う。そうすることで、事実と自分の意見をそれぞれ明確に記述することができるようにしたい。

- ③ 書き手の思いをより正確に伝えるために、これまで指導をしてきた Accuracy（正確さ）、Fluency（流暢さ）に加え、Complexity（複合性）についても意識させる。また、ペアによるモニタリングの活動を通して、表現内容だけでなく、表現方法についての意識も高めていく。特に、後置修飾に関しては、帯活動を通して繰り返し練習を行い、定着を図る。また、英作文の添削における Self-correction Code を活用し、生徒の気づきを促したい。

3. 単元の目標

よりよい世界をつくるために私たちができることについて、世界の偉人の物語を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを紹介記事にまとめる活動を通して、英文を引用したり自分の経験と関連付けたりしながら文章を書くことができるようにする。

4. 関連する学習指導要領における領域別目標

書くこと	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。
------	--

5. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと	<p><知識> 後置修飾の特徴やきまりを理解している。</p> <p><技能> 世界の偉人の物語について読んだり聞いたりして学んだことについて、後置修飾を用いて書く技能を身に付けている。</p>	よりよい世界をつくるためにできることを交流するために、世界の偉人の物語を読んだり聞いたりして、考えたことや感じたこと、その理由などを、英文を引用したり内容に言及したりしながら文章を書いている。	よりよい世界をつくるためにできることを交流するために、世界の偉人の物語を読んだり聞いたりして、考えたことや感じたこと、その理由などを、英文を引用したり内容に言及したりしながら文章を書こうとしている。

6. 指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	学習活動	知	思	態	評価規準【評価方法】
1	<p>① スライドで示した人物について、ペアで説明し合う。その後、後置修飾の特徴やきまりを確認する。</p> <p>② 自己目標を設定する。</p>	○			後置修飾の特徴やきまりについて理解している。【記述分析】【行動観察】
2	<p>① アメリカの黒人差別の歴史に関する内容理解を通して、後置修飾の意味や用法を知る。</p> <p>② 本文を引用しながら英文を書くための表現方法を学ぶ。</p>	○			<ul style="list-style-type: none"> 後置修飾の意味や用法（動詞の-ing形、過去分詞形）を理解している。【記述分析】 引用の仕方を理解している。【記述分析】
3	<p>① ローザ・パークスの事件に関する内容理解を通して、後置修飾の使い方を知る。</p> <p>② 印象に残った箇所を引用し、理由とともに紹介し合う。</p>	○			<ul style="list-style-type: none"> 後置修飾の意味や用法（名詞を説明する文）を理解している。【記述分析】 引用の仕方を理解し、理由とともに紹介している。【記述分析】

4	① Readの全体を読み、黒人差別の歴史について時系列にまとめながら、物語の概要を捉える。 ② 本文で使われている未知の語の意味や、後置修飾の構造と意味を理解する。		○		黒人差別の歴史に関する物語について、概要を捉えている。【記述分析】【行動観察】
5	① Readの前半部分を読み、印象に残った部分を引用し、理由とともにペアで伝え合う。 ② 話した内容を踏まえて、Readの文を読んだ感想を書く。		○		黒人差別の歴史について、印象に残った箇所を引用し、理由とともにペアで伝え合っている。【記述分析】【行動観察】
6	① Readの後半部分を読み、キング牧師の実際のスピーチ映像を視聴して、感想を交流する。 ② 話した内容を踏まえて、スピーチ部分の文を読んだ感想を書く。		○		スピーチ映像やスピーチ文をもとにして、黒人差別の歴史に対する自分の考えを感想として書いている。【記述分析】【行動観察】
7 本時	① What can we learn from Dr. King? の問いに対する自分の意見を考え、交流する。 ② 話した内容を踏まえて、本文で印象に残った箇所を引用したり、理由を述べたりして感想を書く。		◎	◎	<思考・判断・表現> 《よりよい世界をつくるためにできることを交流するために、世界の偉人の物語を読んだり聞いたりして、考えたことや感じたこと、その理由などを、英文を引用したり内容に言及したりしながら文章を》書いている。【記述分析】 <主体的に学習に取り組む態度> 《同上》書こうとしている。【記述分析】【行動観察】
8	① What can we learn from the Great people? についてのスピーチをする。 ② 同様のテーマで英作文を作成し、提出する。 ③ 自己目標の達成状況を振り返る。	◎	◎	◎	<知識> 後置修飾の特徴やきまりを理解している。【記述分析】 <技能> 世界の偉人の物語について読んだり聞いたりして学んだことについて、後置修飾を用いて書く技能を身に付けている。【記述分析】 <思考・判断・表現> 《よりよい世界をつくるためにできることを交流するために、世界の偉人の物語を読んだり聞いたりして、考えたことや感じたこと、その理由などを、英文を引用したり内容に言及したりしながら文章を》書いている。【記述分析】 <主体的に学習に取り組む態度> 《同上》書こうとしている。【記述分析】【行動観察】
後日	ペーパーテスト（定期テスト）	◎	◎	◎	

特別の教科 道徳（道徳科）の学習指導案の様式（例）

1 道徳科の学習指導案の内容

道徳科の学習指導案には、特に決まった形式はありませんが、学習指導要領の解説には次のような内容で作成することが示されています。

項目事項	項目に盛り込みたい事項
1 主題名	<p>主題とは、どのような道徳的価値をねらいとし、教材をどのように活用するのか指導のまとまりを表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例1・・・「気持ちのよい学校生活」 ・例2・・・「自然に学ぶ」 ・例3・・・「働くことの意味と大切さ」
2 ねらいと教材	<p>○ねらいの文末表現は、その時間の指導の重点が道徳的心情の側面にあるのか、道徳的判断力の側面にあるのか、道徳的実践意欲や態度の側面にあるのか明確に示す。</p> <p>○ねらいの構造 例えば、ねらいは、「学習の中心的内容」「学習活動」「道徳性の諸様相」の3つの構造を一文で表す。</p> <p>○教材名と出典を示す。 (例) 教材名「ブランコ乗りとピエロ」相互理解、寛容 出典「私たちの道徳」</p>
3 主題設定の理由	<p>(1) ねらいとする道徳的価値 【価値観】</p> <p>授業者が、1時間の授業で指導する道徳的価値を理解して、自分なりの考え方を記載する。その際、学習指導要領解説によること。</p>
	<p>(2) 児童生徒の実態 【児童生徒観】</p> <p>ねらいに関わって、これまでどのような指導を行ってきたか、また児童生徒がどのような学習や経験をしているのか。また、その結果、どのような成果や課題があるのかを示す。</p>
	<p>(3) 教材の特質と活用方法 【教材観】</p> <p>教材のあらすじや特質、それを生かす具体的な活用方法等を記述する。</p>
4 本時の学習指導過程	<p>一般的には、導入、展開、終末の各段階に区分し、児童生徒の学習活動、主な発問と予想される児童生徒の発言、指導上の留意点、指導の方法等を指導の流れに即して記述する。</p>
5 評価	<p>本時で、児童生徒に期待する学びの姿を示す。(評価の着眼点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇多面的・多角的な見方へと発展させているか ◇道徳的価値の理解を自分との関わりで深めているか <p>⇒これらの方向で、実際の教材や発問等を鑑みて、児童生徒に期待する具体的な学びの姿を想定する。</p>
6 その他	<p>板書計画、他の教育活動との関連、複数時間扱いの際の指導計画等</p>

2 道徳科のねらいと評価

道徳科のねらいは、特に決められた形式等はありませんが、明確にしておくべき事項があります。

道徳科の学習は、道徳性の育成を目指して行われます。

ですから、その時間の指導の重点が、道徳的心情の側面にあるのか、道徳的判断力の側面にあるのか、道徳的実践意欲や態度の側面にあるのか明確にすることが大切です。



- 本時でねらう道徳性の諸様相を明確にする。
- ねらいの文末は、道徳性の諸様相を明確にして示す。
 - ☞ ～～な心情を育てる（道徳的心情の側面）
 - ☞ ～～な判断力高める（道徳的判断力の側面） 等

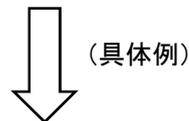
【ねらいの構造】

「新大分スタンダード」では、各教科等のねらいについて、「学習内容」「学習活動」「育成を目指す資質・能力」の3つの要素を入れた書き方を示しています。

道徳科で言えば、次のような3つの要素で書くことが考えられます。

「学習の中心的内容」 「学習活動」 「道徳性の諸様相」

- 「学習の中心的内容」 (～について、～を)
- 「学習活動」 (～活動を通して) 期待する学習状況のこと ☞ 評価の着眼点
- 「道徳性の諸様相」 (～な心情を育てる、～な判断力を高める、～な態度を育てる等)



- 「学習の中心的内容」・・・ 主人公が気付いた働くことの意味や大切さについて
- 「学習活動」・・・ 様々な側面から考えたり、話し合ったりする活動を通して
- 「道徳性の諸様相」・・・ 勤労を通じて社会に貢献していこうとする心情を育てる。

【教材 そうじの神様が教えてくれたこと 中学校】

【評価の着眼点】

道徳科の評価は、道徳性が育ったかどうかを評価するものではありません。
道徳性につながっていくような学習状況がみられたかどうかを、把握していきます。
したがって、ねらいの3つの要素のうち、「学習活動」を評価の着眼点にします。

上の例で言えば、「働くことの意味や大切さについて、様々な側面から考えたり、話し合ったりしているかどうか」を見ていくのです。

教材や発問等を鑑みて、次のような具体的な【評価の着眼点】を設定します。

勤労の意義について、＜義務＞＜役割＞＜誇り＞等の様々な視点から、考えたり、話し合ったりしているかどうか。

3 学習指導案の例（中学校）

第1学年 道徳科指導案

1 主題名 働くことの意味と大切さ

2 ねらいと教材

主人公が気付いた働くことの意味や大切さについて、様々な側面から考えたり、話し合ったりする活動を通して、勤労を通じて社会に貢献していこうとする心情を育てる。

＜教材名「ディズニー そうじの神様が教えてくれたこと」
内容項目「勤労」 出典「日本文教出版」＞

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値【価値観】

現代社会は巨大で複雑な産業社会となり、自分のしている仕事の意義が見えにくく、自らの目的をもちづらくなっている。これまであった仕事姿が姿を消し、新しい仕事が生み出されていく社会の中で、職業とは何かについて考えることは大切である。

職業には、収入を得て生活を維持するという面、社会の中で一定の役割を果たして社会を支えるという面、自らの目的を実現するために働くという職業を使命として捉える面等がある。また、働くことは、人生において、重要な位置を占めており、人は働くことの喜びを通じて生きがいを感じ、社会とのつながりを実感することができる。

指導に当たっては、特に与えられた仕事への向き合い方を考えさせる。そして、働くことには自分自身の幸福追求だけでなく、自分が行う仕事によって社会を支え、発展・向上に貢献している一面もあることに気付かせたい。

（2）生徒の実態【生徒観】

本学級では、「何を優先して職業を選ぶか」という意識調査において、「趣味や特技をいかせる仕事」や「高収入を得られる仕事」、「将来が安定している仕事」を優先的に選ぶ生徒が大多数を占めている。

一方で「社会や人の役に立つ仕事」を優先的に選んでいる生徒は2人だった。職業を選ぶ上で自分の好きなことを優先し、安定していたり、高収入が得られたりする仕事に就きたいという生徒が多い傾向にある。

本時では働くことの意味を、収入という面、社会を支えるという面、職業を使命として捉える面等、多面的に考えさせることを通して、働くことの意味や大切さについて、生徒個々の考え方を深めていきたい。

（3）教材の特質と活用方法【教材観】

本教材の主人公は、ディズニーランドの「夜の清掃員」に配属されて落ち込み、掃除に対して偏見を抱えながら働いていた。

そんな時、ディズニー本社の「掃除の神様」チャックと出会い、掃除の方法や掃除に対する考え方を知り、主人公は、働くことの意味や誇りをもつことの大切さを学んでいく。

生徒たちに、主人公の変化や仕事への向き合い方に出合わせ、働くことの意味について議論させることで、働くとは社会に貢献する側面があると同時に、生きがいや自分の成長につながる側面がある（多面的・多角的な学習）と気付かせることができる教材である。

4 学習過程

	学習活動・主な発問と予想される生徒の反応 (○基本発問 ◎中心発問 ◇補助発問)	指導上の留意点・・・○
導入	1 職業は何を優先して選ぶのか話し合う。 ○職業で大切なことは、何だろう。	○アンケート結果を提示し、本時のねらいに対する問題意識をもたせる。
展開	2 「そうじの神様が教えてくれたこと」を読んで話し合う。 ○「与えられたことをやるしかないんだ」と言った主人公はどんな思いだったか。 ・一生懸命働いて、他の華やかなキャストに変わりたい。 ・頑張って他の場所に移動したい。 ・仕方ないから働く。 ◎「仕事とは、自分の都合のためにやるものではないことを、教えられた」と言っている主人公はどんなことに気付いたか。 ＜ゲストのため＞ ・ゲストを喜ばせたい。 ＜ディズニーランドのため＞ ・みんなで助け合って、完璧なディズニーランドをつくりたい。 ・自分の担当以外でも気付いたらやろう。 ＜自分のため＞ ・ゲストが喜ぶことで結果として自分の夢が叶うことだ。 ・仕事に誇りをもって頑張ることが大切だ。 ◇主人公の夢（目標）は叶った（達成）されたのか。 ・自分の掃除で、ゲストが喜ぶことで夢は叶っている。 ・自分の仕事に、自分自身で納得したと思うから、叶っている。	○教材は、教師が読み聞かせる。 ○主人公が自分の夢（幸福追求）を求めてディズニーランドで働いていることに気付かせる。 ○ここでは、時間をかけすぎないようにする。 ○中心発問に対して、自分で考えをワークシートに書かせる。 ○教材文には、主人公の考えは書いていないことを伝え、自分の感じ方等を総動員させ、考えさせる。 ○考えをペアで交流させ、発表させる。 ○＜ゲストのため＞という意見が多くなると予想されるので、「ゲストのために何をするのか？」と問い、意見を広げていく。 ○誰かのためや社会のために働くことは結果として、自分の喜び(幸福追求)につながることに気付かせる。 ○働くとは、収入以外にも、自分の幸福追求と共に社会貢献の要素があることを整理してまとめとする。 ○一つの考えに集約するようなまとめは行わない。
	3 自分自身を振り返る。 ○仕事をする上で大切なことはどんなことだと思うか。	○今日の学習で、自分にとって何が大切なのかを書かせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	○教師自身の今の職業に対する誇りや生きがい等を語り、生徒のもつ職業観をさらに広げていく。

5 評価

＜学習状況を把握するための指導の着眼点＞

（期待する学習状況）

勤労の意義について、＜義務＞＜役割＞＜誇り＞等の様々な視点から、考えたり、話し合ったりしているかどうか

＜方法＞

- 授業中の発言内容や話合いの様子から把握する。
- ワークシートの内容から把握する。

※参考：＜ねらいと評価の関連＞

学習の中心的内容・・・ 主人公が気付いた働くことの意味や大切さについて
学習活動・・・・・・・・・・ 様々な側面から考えたり、話し合ったりする活動を通して
道徳性の諸様相・・・・・・ 勤労を通じて社会に貢献していこうとする心情を育てる。

勤労の意義について、＜義務＞＜役割＞＜誇り＞等の様々な視点から、考えたり、話し合ったりしているかどうか。

6 その他

板書計画（例）

そうじの神様が教えてくれたこと

アンケート結果

何を優先に仕事を選ぶか

- ・高収入・・・50%
- ・趣味や特技・・・25%
- ・休みが多い・・・15%
- ・人の役に立つ 10%
- ・その他

めあて 職業で大切なことは何だろう！

与えられたことをやるしかない！

・仕方がない。
・華やかな場所に
変わりたい



・頑張って、他の所へ
・これも大切な仕事なのだ



「仕事は自分の都合のためにやるものではないことを教えられた」と言っている主人公は、どんなことに気付いたか。

- ・ゲストのためにいい環境をつくるのが大切
- ・ゲストの喜ぶ顔が仕事の成功

＜ゲストのため＞

- ・みんなで作ってあげるのが、ディズニーだ
- ・自分の担当以外も気付いたら行うことが大切

＜ディズニーのため＞

- ・ゲストの喜ぶことが自分の誇りになる
- ・自分の仕事にプライドをもって行うのがディズニーだ

振り返り 仕事する上で、大切なことはどんなことだと思うか？

総合的な学習の時間 単元計画としての学習指導案

単元の計画を具体的に表現するには、例えば次のような項目を学習指導案に位置付けることが考えられる。
(小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 P104～ 中学校は P99～)

令和〇年度 〇〇小(中)学校 総合的な学習の時間 第〇学年(〇年〇組) 学習指導案

1 単元名

総合的な学習の時間において、どのような学習が展開されるかを一言で端的に表現したものが単元名である。総合的な学習の時間の単元名については、例えば、

- ・児童(生徒)の学習の姿が具体的にイメージできる単元名にすること
- ・学習の高まりや目的が示唆できるようにすること

などに配慮することが大切である。

2 単元の目標

単元の目標は、どのような学習を通して、児童(生徒)にどのような資質・能力を育成することを旨とするかを明確に示したものである。各学校において定める目標や内容を視野に入れ、中核となる学習活動を基に構成する。

3 単元設定の理由

(1) 児童(生徒)の実態

単元を構想し、構成する際には、児童(生徒)の実態を明確に把握する必要がある。特に、目標を実現するにふさわしい探究課題(これまでの学習経験)、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について、どのような実態であるかを把握しておくことが欠かせない。また、中核となる学習活動について、どのような経験をもっているのかも明らかにする必要がある。

なお、児童(生徒)の実態の背景や原因を教師の指導の立場から分析し、記述することが大切である。

(2) 教材について

教材とは、児童(生徒)の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことである。単元計画の中に教材について記すに当たっては、教材の紹介にとどまらず、児童(生徒)がその教材に出会うことによって学ぶ学習事項について分析し、教材のどこに価値があるのかを具体的に記すことが大切である。

(3) 指導について

探究の各プロセスにおいてどのような指導の工夫を行うのかを具体的に記述する。探究の各プロセスとは、①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現のそれぞれのことである。また、児童(生徒)の主体性や協働的な学習を重視するとともに、各教科等との関連や、地域の教育資源の活用等、探究的な学習を具現するために必要な教師の指導について記述することが大切である。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知識・技能」の観点は</p> <p>① 概念的な知識の獲得</p> <p>② 自在に活用することが可能な技能の獲得</p> <p>③ 探究的な学習のよさの理解</p> <p>の3つに関する評価規準を作成する。</p>	<p>「思考・判断・表現」の観点は</p> <p>① 課題の設定</p> <p>② 情報の収集</p> <p>③ 整理・分析</p> <p>④ まとめ・表現</p> <p>の過程で育成される資質・能力を児童（生徒）の姿として示して、評価規準を作成する。</p>	<p>「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視する。これらは、自他を尊重する①自己理解・他者理解、自ら取り組んだり力を合わせたりする②主体性・協働性、未来に向かって継続的に社会に関わろうとする③将来展望・社会参画などについて育成される資質・能力を児童の姿として示して、評価規準を作成する。</p>

国立教育政策研究所「指導と評価の一体化のための参考資料（令和2年3月）を参考に、評価規準を作成する。

【単元の評価規準を作成する手順】

- ① 単元の目標を確認する。
- ② 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、目指すべき学習状況としての児童（生徒）の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

5 指導と評価の計画（全○時間）

次（時間）	ねらい・学習活動	知	思	態	備考
<p>単元の展開では、目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力、児童（生徒）の興味・関心を基に中核となる学習活動を設定する。どのような資質・能力の伸長を期待しているのかを想定しながらの作業となる。</p> <p>【育成を目指す具体的な資質・能力と、具体的な学習活動を明らかにする必要がある】</p> <p>単元の学習を通して、どのような概念的な知識を児童（生徒）に獲得してほしいのか、どのような思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の伸長を期待しているのか（<u>資質・能力</u>）を明確にし、児童（生徒）の興味・関心から始まる学習活動の連続が、探究的な学習活動となるよう単元を構想（<u>具体的な学習活動</u>）しなければならない。この段階では、具体的な時数や学習環境なども視野に入れ、単元の展開を具体化することが求められる。</p>					

【小学校学習指導要領解説 総合編 P. 104】【中学校学習指導要領 総合編 P. 99～】

（指導と評価の計画の枠組みは例示である。子どもの探究活動のまとまりが分かるように記述する。）

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

(2) 展開 (○分)

学習活動 (○) 及び予想される子どもの反応 (・)	時間	○教師の支援 ◆評価規準及び評価方法
○具体的な学習活動を記入する。 ・予想される子どもの反応や思考の流れ等を記入する。		○主な学習活動に即した教師の指導や支援を記述する。 ◆評価規準と評価方法を記入する。

(本時の展開の枠組みは例示である。)

1 単元名 佐伯駅弁開発プロジェクト

～「佐伯ならではの幸」でおもてなし～（全70時間）

2 単元の目標

人口減少や観光客の減少等の問題を抱える地域がもっと賑わうように、地域の特産品や活性化に取り組む人々について調べたり、地域の特産品を使った商品を開発して発信したりする活動を通して、地域の活性化に取り組む人々の思いや願いや自分たちにできることに気づき、持続可能な地域の在り方について考えるとともに、地域の一員として進んで行動しようとするようにする。

3 単元設定の理由

本単元は、探究課題「地域の特産品やその生産に携わる人々及び地域の活性化を目指す人々の思いや願いとそれを実現することの意義」に基づいて構想したものである。

（1）児童の実態

子どもたちの総合的な学習の時間に対する意識は高い。本校は学級総合を基本としており、毎年調査しているアンケートでは、学級の全児童が総合的な学習の時間が「とても好き」「まあまあ好き」と答えており、毎時間楽しみにしている。好きな理由としては「いろいろな体験ができる」「自分たちの考えた方法で活動できる」「みんなと協力して学習できる」「やり遂げたいうれしさや楽しさを感じることができる」が挙げられている。そして、総合的な学習の時間で学んだことや経験したことが他教科や日頃の生活に役立っていると考える子どもの割合は71.4%と多い。

昨年までの学習の中で、思考ツールを使って整理し、課題についての話し合いを繰り返し、活発な意見交換ができるようになってきている。しかし、目的や意図に応じた思考ツールを自ら選択して活用するまでには至っていない。これは、教師から提示された思考ツールを使って話し合う場面が多く、課題の解決に向けて話し合う目的や意図、ゴールイメージを明確にもたせることができていなかったからであると考えている。

また、昨年度の総合的な学習の時間において、クラス全員で音を奏でる「ボディーパーカッション」や自分たちでペットボトルロケットを作成しての「ミニミニ宇宙開発」など、各学級の取組の中で、多様な体験活動を行い、新しいもの（こと）を自分たちで創り上げることの楽しさや難しさを実感している。

（2）教材について

これまでにない「佐伯駅弁を開発する」ことに強く関心をもつことが

【単元の目標の構成】

学習内容

学習活動

資質・能力

これまでの総合的な学習の時間の経験を踏まえる。

どのような内容を学び、どのような資質・能力を身に付けているのか等、児童（生徒）の実態を把握するとともに、教師の指導の立場から分析する。

期待できる。また、商品化という中核となる活動を仕組むことで、子どもたちが相手（消費者）を意識しながら、主体的に学習活動を進めていくことが期待できる。

また、駅弁の材料となる「どのような特産品があるのか」「地域ならではのこだわり」などについての情報を収集する中で改めて佐伯のよさを見つめ直すこともできる。さらに、「自分たちだけで駅弁を作れるのか」「駅長さんの思いを実行することにつながっているのか」という目的に応じた整理・分析をしたり、活動の様子をまとめて紹介したりする表現活動など、探究的な学習のプロセスを繰り返すことができる教材である。

活動していく中では、子どもたちが乗り越えていくべき問題も生じるであろう。その壁を乗り越える場を主体的、協働的な学習の機会として生かすことができる。また、課題解決のためには地域の方の力を活用することの重要性を学ぶ機会も設定できる。

このような主体的な活動の中では、KJ法・座標軸・ピラミッドチャート・くま手チャート・ボックスチャート等の思考ツールの活用を助け、子どもたちが課題を解決しようとする場面で比較する力や関連付ける力を中心に思考力を身に付け、願いを実現しようとする態度を育てることができると考えている。

(3) 指導について

①活動全体を見通した留意点

- 失敗や躓きを予想して、「学び」の場面として生かす。
- 思考ツールを積極的に活用し、目的に応じて選択できるようにする。
- 仲間や地域の方々、専門家等との協働的な学習の機会を増やし、共に学ぶことの楽しさを実感できるようにする。
- 国語科・家庭科を中心として、各教科等との関連を図る。

②探究的な学習プロセスの構成

ア 課題設定の工夫

まず、佐伯駅を見学し、駅（市）の現状や駅長さんの熱い思いを聞くことで、観光客を増やすために自分たちも協力したいという気持ちをもたせ、「駅弁開発」を課題に設定する。佐伯駅ならではの「めだま」を作ることを仕掛け、より積極的に取り組めるようにする。ステップ2では、まず、自分たちが食べたい駅弁をイメージする。その後、自分たちの好みだけで良いのかどうかを考え、買い手の立場になって駅弁を考えていく。ステップ3では、自分たちの力だけでは「駅弁」を作ったり売ったりすることは難しいという困りから、地域の方々と協働したいという思いをもたせ積極的にPRできる場を設定する。躓きが生じた時には、一度の失敗で諦めて終わりにならないように、地域の方や家族に協力

この単元で児童（生徒）が学ぶ学習事項について分析する。単元の独自性や重点が分かるようにする。

探究の各プロセスにおいてどのような指導の工夫を行うのかを具体的に記述する。

【課題設定】児童（生徒）の課題意識が連続発展するような教師の手立てが大切である。

- ・意図的な働きかけ
- ・学習対象との関わり方や出合わせ方を工夫
- ・対象に直接触れる体験活動など

してもらい、活動の方向性を自分たちで考えさせたい。

イ 情報収集の工夫

情報を収集するにあたっては、活動の目的を意識させることで、「だれが」「だれに」「何を」「どのようにして」などの観点を踏まえるようにする。目的に応じて手段を選択し、課題解決のために必要な情報を集めることができるようにしたい。さらに、収集した情報は適切な方法で蓄積するようにする。

【情報収集】目的に応じた多様な方法で必要な情報を取り出したり収集したりする。

- ・情報は多様であり、収集する方法によって異なる。
- ・体験を通じた感覚的な情報収集を大切にする。
- ・自覚的に行う。
- ・収集した情報は蓄積する。

ウ 整理・分析の工夫

体験したことや情報を整理・分析する段階では、多様な思考ツールに触れさせていきたい。集めた情報を整理するために、マトリックス表やグラフを用いる。最終的には、自分たちで情報を整理・分析する手段として、いろいろな思考ツールを自分たちで選択し活用できるようにさせたい。それを繰り返す中で、子どもにとって考え方の方向性が見える適切なツールを自分たちで選び、活用する力を付けさせたい。また、効果的な板書や発問、話し合いの論点を明確にする等の工夫で、子どもたちが根拠をもとに自分の考えを表現したり思考を深めたりできるようにしたい。

【整理分析】収集した情報を整理したり分析したりして思考する場面を位置付ける。

- ・「考えるための技法」の活用を意識する。
- ・考えを操作化、可視化する思考ツールの活用を検討する。
- ・子ども自身が情報を吟味する。
- ・どのような情報がどの程度収集されているか把握する。
- ・どのような方法で情報の整理分析を行うのか決定する。

本単元で活用されることが予想される思考ツールは、座標軸、ピラミッドチャート、メリット・デメリット、ボックスチャートなどである。これらを、目的や必要に応じて選択したり組み合わせたりしながら活用する力を付けるとともに、自分たちの考えを生かした学習活動が展開されるよう支援していきたい。

エ まとめ・表現の工夫

駅弁ができたなら、それを「めだま」に観光客を呼び込みたいこと等について、佐伯駅、観光協会、まち作り団体、お店に対する様々なプレゼンテーションの仕方を考え、相手や目的、自分たちの意図を明確にする。その際、友達と話し合ったり協力し合ったりして準備をしていくことを大切にする。活動の最終場面では、自分たちが開発した駅弁をたくさんの人たちに味わってもらう場を位置付ける。そのことにより、自分たちの力でできたという達成感や、地域のために開発できたという成就感を味わわせたい。さらに、1年間の活動を振り返りや駅弁にこめた思いなどをプレゼンにし、地域に出かけて表現する活動を行う。最終的には、自分たちが考えた駅弁で佐伯を訪れている人たちをおもてなしし、感謝の気持ちを伝え、このプロジェクトの終わりにしたいと考えている。

【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。

- ・相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりする。
- ・まとめ表現が、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつながる。
- ・伝えるための具体的な方法を身に付ける。(各教科等の表現方法の活用など)
- ・外部への発信と評価により、子どもたちに達成感を味わわせる。

オ 自己のよさや学びのよさに気付かせるための工夫

活動途中や活動後に、子どもたちが学んだことを生かしている姿を教師自身が見付け、すぐにフィードバックする「その都度評価」を行うことで、学びのよさを実感できるようにしていきたい。なお、「その都度評価」を行う際には、「付けたい力」だけにとらわれるのではなく、一人ひとりの個人内評価を重視していきたい。また、地域の方々からの評価等もいただきながら、子どもたちが主体的に活動できるようにしたい。1時間ごとの振り返りの中で、友だちの良さががんばりを紹介するとともに、自己の成長に気付かせる。子どもたちの振り返りを次時の導入に活用するなどして、子どもたちの活動と思考を連続させていきたい。

【評価と振り返り】 資質・能力を育成することができているかどうかを見取る。

- 個人内評価を大切にする
- 多様な評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせる
- 学習内容を確認する振り返り
- 学びの価値を実感する振り返り
- 学びの手ごたえを実感する振り返り など

4 単元の評価規準（例）

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 地域には海・山・川の自然を生かして生産される特産品が存在し、それらを生かしたまちづくりが進められていることと、自分たちの生活が関わっていることを理解している。</p> <p>② 活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらかつてまとめる方法が分かっている。</p> <p>③ まちづくりと自分たちの生活に関連があることの理解は、特産品とまちづくりの関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>① 特産品を生かした地域の活性化について、現状や理想との隔たりから課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。</p> <p>② 特産品を生かした地域の活性化に向けて必要な情報を、手段を選択して収集している。</p> <p>③ 地域の活性化に向けて収集した情報を取捨選択したり、複数の情報や考えを比較したり、関連付けたり、焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。</p> <p>④ 伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p>	<p>① 活動を通して、自分と地域や地域の活性化に取り組む人々とのかかわりを見直そうとしている。</p> <p>② 地域の活性化に向けた取組を考えたり実行したりする中で得た知識や友達や地域の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、地域の活性化に向けて粘り強く取り組もうとしている。</p>

5 指導と評価の計画（全70時間）※例

次（時間）	ねらい・学習活動	知	思	態	備考
地域の現状を調査し、地域の活性化に向けた取組を考えよう （20時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の玄関口である駅に出かけ、駅長の話の聞いたり、駅周辺の様子を見学したりする。 ○地域の商店街の様子を調べたり、過去と現在の様子について調べたり、地域の方々から話を聞いたりする。 ○地域がもつ特徴やよさ等を調べる。 ○調べて分かったことを整理して、地域の現状を明らかにする。 ○地域の活性化に向けて、自分たちにできることを考える。 	①	①		<p>知：振り返りシート</p> <p>思：発言分析 振り返りシート</p>
地域の食材を使った「オリジナル駅弁」をつくろう （30時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○地域が進めている活性化の在り方を調べたり、関係機関から話を聞いたりする。 ○全国の駅弁等について調べ、特徴を整理する。 ○どんな駅弁を作りたいか視点を決めて考え、駅弁イメージ図をつくる。 ○駅弁を作るために知りたいことを出し合い、インタビュー等で情報を収集する。 ○栄養教諭や観光課の方々、地域に訪れている観光客等に自分たちの駅弁の意見をもらい、活動の方向性を見いだすために整理分析する。 ○試作・改善を繰り返す。 ○駅弁についての意見を踏まえ、完成した駅弁のPR内容や方法を考える。 	②	② ③ ① ④	② ③	<p>知：振り返りシート</p> <p>思：発言分析 態：行動観察 振り返りシート</p> <p>思：発言分析 振り返りシート</p> <p>思：発言分析 振り返りシート</p>
自分たちの取組を振り返り、地域の活性化と自分たちの関わりについて考えよう （20時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの活動を振り返るとともに、地域の特産品や活性化の取組と自分たちの関わりについて考える。 ○他地域の活性化の様子等を調べ、自分たちの地域にも生かせそうな取組を調べたりまとめたりす 	③	②	②	<p>知：振り返りシート 態：行動観察 振り返りシート</p> <p>思：振り返りシート</p>

	<p>る。</p> <p>○関係機関と協働しながら、持続可能な活性化に向けたアイデアをまとめ、「地域 MIRAI ノート」にまとめる。</p>	④			知：MIRAI ノート
--	---	---	--	--	-------------

【留意点】

児童（生徒）が自ら探究活動を進めるイメージをもって、学習活動のまとまりを示す。
 探究的な学習の過程が充実するよう、探究プロセスを複数回繰り返すようにする。

6 本時の展開（38／70）

（1）本時のねらい

オリジナル駅弁の食材について、「佐伯ならではの」「時間がたってもおいしい」という視点に沿って、根拠や理由を明確にして話し合ったり、それぞれの食材のよさ等について比較したり多面的に検討したりすることを通して、佐伯の「めだま」となる駅弁にふさわしい食材を決定することができるようにする。

（2）展開（45分）

学習活動及び予想される子どもの反応	時間	○教師の支援 ◆評価規準及び評価の方法															
1 前時を振り返りながら、本時の課題を確認する。 ・くま手チャートで考えた食材の振り返りをする。 ・前時の振り返りシートを数人分紹介する。	5	○前時の振り返りシートの中から、本時の課題につながる内容のものを紹介する。															
（めあて）佐伯の「めだま」にふさわしい駅弁になるような食材を決めよう																	
・自分たちの駅弁に欠かせない要素（視点）を確認し、それに沿って話し合うことを押さえる。 「佐伯ならではの」「時間がたってもおいしい」 2 個人が選んだ食材を出し合い、班で検討し、1～2個に絞り込む。 ・マトリックスを用いて多面的に話し合う。 ・個人のくま手チャートに記された根拠や理由を出し合う。	15	○話し合いの視点を板書に位置付け、意識させる。 ◆B-③（発言分析） <具体的な児童の姿> ・それぞれの食材の特徴を踏まえ、自分なりの理由や根拠をもって視点に基づき検討している。															
<table border="1" data-bbox="113 1167 914 1417"> <thead> <tr> <th>食材／視点</th> <th>佐伯ならではの</th> <th>時間がたってもおいしい</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ぶり</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ひじき</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>塩トマト</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>マリンレモン</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	食材／視点	佐伯ならではの	時間がたってもおいしい	ぶり	△	○	ひじき	△	○	塩トマト	○	○	マリンレモン	○	○		○食材名のみが発言が続く際には、「どうしてそうだったか」問いかけ、根拠を明確にするようにする。
食材／視点	佐伯ならではの	時間がたってもおいしい															
ぶり	△	○															
ひじき	△	○															
塩トマト	○	○															
マリンレモン	○	○															
3 班で絞り込んだ食材について、全体で検討する。 ・ボックスチャートを黒板に位置付け、班で出された意見を全体で検討しながら、食材を決めていく。 <div data-bbox="113 1570 914 1939" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <pre> graph TD A[ごまだし] --- B[ちりめん] B --- C[塩トマト] B --- D[ぶり] D --- E[マリンレモン] D --- F[ひじき] E --- D </pre> </div>	20	○全体での話し合いによって食材が決定されるよう、「みんなはどう思うか」等問いかけていく。 ○本時の話し合いについての自分の思いや次時のめあてを書くよう助言する。															
4 本時の振り返りをする。 ・本時の話し合いを振り返り、次時のめあてについて考える。	5																

総合的な学習の時間 単元計画としての学習指導案

単元の計画を具体的に表現するには、例えば次のような項目を学習指導案に位置付けることが考えられる。
(小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 P104～ 中学校は P99～)

令和〇年度 〇〇小(中)学校 総合的な学習の時間 第〇学年(〇年〇組) 学習指導案

1 単元名

総合的な学習の時間において、どのような学習が展開されるかを一言で端的に表現したものが単元名である。総合的な学習の時間の単元名については、例えば、

- ・児童(生徒)の学習の姿が具体的にイメージできる単元名にすること
- ・学習の高まりや目的が示唆できるようにすること

などに配慮することが大切である。

2 単元の目標

単元の目標は、どのような学習を通して、児童(生徒)にどのような資質・能力を育成することを旨とするかを明確に示したものである。各学校において定める目標や内容を視野に入れ、中核となる学習活動を基に構成する。

3 単元設定の理由

(1) 児童(生徒)の実態

単元を構想し、構成する際には、児童(生徒)の実態を明確に把握する必要がある。特に、目標を実現するにふさわしい探究課題(これまでの学習経験)、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について、どのような実態であるかを把握しておくことが欠かせない。また、中核となる学習活動について、どのような経験をもっているのかも明らかにする必要がある。

なお、児童(生徒)の実態の背景や原因を教師の指導の立場から分析し、記述することが大切である。

(2) 教材について

教材とは、児童(生徒)の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことである。単元計画の中に教材について記すに当たっては、教材の紹介にとどまらず、児童(生徒)がその教材に出会うことによって学ぶ学習事項について分析し、教材のどこに価値があるのかを具体的に記すことが大切である。

(3) 指導について

探究の各プロセスにおいてどのような指導の工夫を行うのかを具体的に記述する。探究の各プロセスとは、①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現のそれぞれのことである。また、児童(生徒)の主体性や協働的な学習を重視するとともに、各教科等との関連や、地域の教育資源の活用等、探究的な学習を具現するために必要な教師の指導について記述することが大切である。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知識・技能」の観点は</p> <p>① 概念的な知識の獲得</p> <p>② 自在に活用することが可能な技能の獲得</p> <p>③ 探究的な学習のよさの理解</p> <p>の3つに関する評価規準を作成する。</p>	<p>「思考・判断・表現」の観点は</p> <p>① 課題の設定</p> <p>② 情報の収集</p> <p>③ 整理・分析</p> <p>④ まとめ・表現</p> <p>の過程で育成される資質・能力を児童（生徒）の姿として示して、評価規準を作成する。</p>	<p>「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視する。これらは、自他を尊重する①自己理解・他者理解、自ら取り組んだり力を合わせたりする②主体性・協働性、未来に向かって継続的に社会に関わろうとする③将来展望・社会参画などについて育成される資質・能力を児童の姿として示して、評価規準を作成する。</p>

国立教育政策研究所「指導と評価の一体化のための参考資料（令和2年3月）を参考に、評価規準を作成する。

【単元の評価規準を作成する手順】

- ① 単元の目標を確認する。
- ② 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、目指すべき学習状況としての児童（生徒）の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

5 指導と評価の計画（全○時間）

次（時間）	ねらい・学習活動	知	思	態	備考
<p>単元の展開では、目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力、児童（生徒）の興味・関心を基に中核となる学習活動を設定する。どのような資質・能力の伸長を期待しているのかを想定しながらの作業となる。</p> <p>【育成を目指す具体的な資質・能力と、具体的な学習活動を明らかにする必要がある】</p> <p>単元の学習を通して、どのような概念的な知識を児童（生徒）に獲得してほしいのか、どのような思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の伸長を期待しているのか（<u>資質・能力</u>）を明確にし、児童（生徒）の興味・関心から始まる学習活動の連続が、探究的な学習活動となるよう単元を構想（<u>具体的な学習活動</u>）しなければならない。この段階では、具体的な時数や学習環境なども視野に入れ、単元の展開を具体化することが求められる。</p>					

【小学校学習指導要領解説 総合編 P. 104】【中学校学習指導要領 総合編 P. 99～】

（指導と評価の計画の枠組みは例示である。子どもの探究活動のまとまりが分かるように記述する。）

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

(2) 展開 (○分)

学習活動 (○) 及び予想される子どもの反応 (・)	時間	○教師の支援 ◆評価規準及び評価方法
○具体的な学習活動を記入する。 ・予想される子どもの反応や思考の流れ等を記入する。		○主な学習活動に即した教師の指導や支援を記述する。 ◆評価規準と評価方法を記入する。

(本時の展開の枠組みは例示である。)

1 単元名 佐伯駅弁開発プロジェクト

～「佐伯ならではの幸」でおもてなし～（全70時間）

2 単元の目標

人口減少や観光客の減少等の問題を抱える地域がもっと賑わうように、地域の特産品や活性化に取り組む人々について調べたり、地域の特産品を使った商品を開発して発信したりする活動を通して、地域の活性化に取り組む人々の思いや願いや自分たちにできることに気づき、持続可能な地域の在り方について考えるとともに、地域の一員として進んで行動しようとするようにする。

3 単元設定の理由

本単元は、探究課題「地域の特産品やその生産に携わる人々及び地域の活性化を目指す人々の思いや願いとそれを実現することの意義」に基づいて構想したものである。

（1）児童の実態

子どもたちの総合的な学習の時間に対する意識は高い。本校は学級総合を基本としており、毎年調査しているアンケートでは、学級の全児童が総合的な学習の時間が「とても好き」「まあまあ好き」と答えており、毎時間楽しみにしている。好きな理由としては「いろいろな体験ができる」「自分たちの考えた方法で活動できる」「みんなと協力して学習できる」「やり遂げたいうれしさや楽しさを感じることができる」が挙げられている。そして、総合的な学習の時間で学んだことや経験したことが他教科や日頃の生活に役立っていると考えた子どもの割合は71.4%と多い。

昨年までの学習の中で、思考ツールを使って整理し、課題についての話し合いを繰り返し、活発な意見交換ができるようになってきている。しかし、目的や意図に応じた思考ツールを自ら選択して活用するまでには至っていない。これは、教師から提示された思考ツールを使って話し合う場面が多く、課題の解決に向けて話し合う目的や意図、ゴールイメージを明確にもたせることができていなかったからであると考えている。

また、昨年度の総合的な学習の時間において、クラス全員で音を奏でる「ボディーパーカッション」や自分たちでペットボトルロケットを作成しての「ミニミニ宇宙開発」など、各学級の取組の中で、多様な体験活動を行い、新しいもの（こと）を自分たちで創り上げることの楽しさや難しさを実感している。

（2）教材について

これまでにない「佐伯駅弁を開発する」ことに強く関心をもつことが

【単元の目標の構成】

学習内容

学習活動

資質・能力

これまでの総合的な学習の時間の経験を踏まえる。

どのような内容を学び、どのような資質・能力を身に付けているのか等、児童（生徒）の実態を把握するとともに、教師の指導の立場から分析する。

期待できる。また、商品化という中核となる活動を仕組むことで、子どもたちが相手（消費者）を意識しながら、主体的に学習活動を進めていくことが期待できる。

また、駅弁の材料となる「どのような特産品があるのか」「地域ならではのこだわり」などについての情報を収集する中で改めて佐伯のよさを見つめ直すこともできる。さらに、「自分たちだけで駅弁を作れるのか」「駅長さんの思いを実行することにつながっているのか」という目的に応じた整理・分析をしたり、活動の様子をまとめて紹介したりする表現活動など、探究的な学習のプロセスを繰り返すことができる教材である。

活動していく中では、子どもたちが乗り越えていくべき問題も生じるであろう。その壁を乗り越える場を主体的、協働的な学習の機会として生かすことができる。また、課題解決のためには地域の方の力を活用することの重要性を学ぶ機会も設定できる。

このような主体的な活動の中では、KJ法・座標軸・ピラミッドチャート・くま手チャート・ボックスチャート等の思考ツールの活用を助け、子どもたちが課題を解決しようとする場面で比較する力や関連付ける力を中心に思考力を身に付け、願いを実現しようとする態度を育てることができると考えている。

(3) 指導について

①活動全体を見通した留意点

- 失敗や躓きを予想して、「学び」の場面として生かす。
- 思考ツールを積極的に活用し、目的に応じて選択できるようにする。
- 仲間や地域の方々、専門家等との協働的な学習の機会を増やし、共に学ぶことの楽しさを実感できるようにする。
- 国語科・家庭科を中心として、各教科等との関連を図る。

②探究的な学習プロセスの構成

ア 課題設定の工夫

まず、佐伯駅を見学し、駅（市）の現状や駅長さんの熱い思いを聞くことで、観光客を増やすために自分たちも協力したいという気持ちをもたせ、「駅弁開発」を課題に設定する。佐伯駅ならではの「めだま」を作ることを仕掛け、より積極的に取り組めるようにする。ステップ2では、まず、自分たちが食べたい駅弁をイメージする。その後、自分たちの好みだけで良いのかどうかを考え、買い手の立場になって駅弁を考えていく。ステップ3では、自分たちの力だけでは「駅弁」を作ったり売ったりすることは難しいという困りから、地域の方々と協働したいという思いをもたせ積極的にPRできる場を設定する。躓きが生じた時には、一度の失敗で諦めて終わりにならないように、地域の方や家族に協力

この単元で児童（生徒）が学ぶ学習事項について分析する。単元の独自性や重点が分かるようにする。

探究の各プロセスにおいてどのような指導の工夫を行うのかを具体的に記述する。

【課題設定】児童（生徒）の課題意識が連続発展するような教師の手立てが大切である。

- ・意図的な働きかけ
- ・学習対象との関わり方や出合わせ方を工夫
- ・対象に直接触れる体験活動など

してもらい、活動の方向性を自分たちで考えさせたい。

イ 情報収集の工夫

情報を収集するにあたっては、活動の目的を意識させることで、「だれが」「だれに」「何を」「どのようにして」などの観点を踏まえるようにする。目的に応じて手段を選択し、課題解決のために必要な情報を集めることができるようにしたい。さらに、収集した情報は適切な方法で蓄積するようにする。

【情報収集】目的に応じた多様な方法で必要な情報を取り出したり収集したりする。

- ・情報は多様であり、収集する方法によって異なる。
- ・体験を通じた感覚的な情報収集を大切にする。
- ・自覚的に行う。
- ・収集した情報は蓄積する。

ウ 整理・分析の工夫

体験したことや情報を整理・分析する段階では、多様な思考ツールに触れさせていきたい。集めた情報を整理するために、マトリックス表やグラフを用いる。最終的には、自分たちで情報を整理・分析する手段として、いろいろな思考ツールを自分たちで選択し活用できるようにさせたい。それを繰り返す中で、子どもにとって考え方の方向性が見える適切なツールを自分たちで選び、活用する力を付けさせたい。また、効果的な板書や発問、話し合いの論点を明確にする等の工夫で、子どもたちが根拠をもとに自分の考えを表現したり思考を深めたりできるようにしたい。

【整理分析】収集した情報を整理したり分析したりして思考する場面を位置付ける。

- ・「考えるための技法」の活用を意識する。
- ・考えを操作化、可視化する思考ツールの活用を検討する。
- ・子ども自身が情報を吟味する。
- ・どのような情報がどの程度収集されているか把握する。
- ・どのような方法で情報の整理分析を行うのか決定する。

本単元で活用されることが予想される思考ツールは、座標軸、ピラミッドチャート、メリット・デメリット、ボックスチャートなどである。これらを、目的や必要に応じて選択したり組み合わせたりしながら活用する力を付けるとともに、自分たちの考えを生かした学習活動が展開されるよう支援していきたい。

エ まとめ・表現の工夫

駅弁ができたなら、それを「めだま」に観光客を呼び込みたいこと等について、佐伯駅、観光協会、まち作り団体、お店に対する様々なプレゼンテーションの仕方を考え、相手や目的、自分たちの意図を明確にする。その際、友達と話し合ったり協力し合ったりして準備をしていくことを大切にする。活動の最終場面では、自分たちが開発した駅弁をたくさんの人たちに味わってもらう場を位置付ける。そのことにより、自分たちの力でできたという達成感や、地域のために開発できたという成就感を味わわせたい。さらに、1年間の活動を振り返りや駅弁にこめた思いなどをプレゼンにし、地域に出かけて表現する活動を行う。最終的には、自分たちが考えた駅弁で佐伯を訪れている人たちをおもてなしし、感謝の気持ちを伝え、このプロジェクトの終わりにしたいと考えている。

【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。

- ・相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりする。
- ・まとめ表現が、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつながる。
- ・伝えるための具体的な方法を身に付ける。(各教科等の表現方法の活用など)
- ・外部への発信と評価により、子どもたちに達成感を味わわせる。

オ 自己のよさや学びのよさに気付かせるための工夫

活動途中や活動後に、子どもたちが学んだことを生かしている姿を教師自身が見付け、すぐにフィードバックする「その都度評価」を行うことで、学びのよさを実感できるようにしていきたい。なお、「その都度評価」を行う際には、「付けたい力」だけにとらわれるのではなく、一人ひとりの個人内評価を重視していきたい。また、地域の方々からの評価等もいただきながら、子どもたちが主体的に活動できるようにしたい。1時間ごとの振り返りの中で、友だちの良さががんばりを紹介するとともに、自己の成長に気付かせる。子どもたちの振り返りを次時の導入に活用するなどして、子どもたちの活動と思考を連続させていきたい。

【評価と振り返り】 資質・能力を育成することができているかどうかを見取る。

- 個人内評価を大切にする
- 多様な評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせる
- 学習内容を確認する振り返り
- 学びの価値を実感する振り返り
- 学びの手ごたえを実感する振り返り など

4 単元の評価規準（例）

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 地域には海・山・川の自然を生かして生産される特産品が存在し、それらを生かしたまちづくりが進められていることと、自分たちの生活が関わっていることを理解している。</p> <p>② 活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらかつてまとめる方法が分かっている。</p> <p>③ まちづくりと自分たちの生活に関連があることの理解は、特産品とまちづくりの関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>① 特産品を生かした地域の活性化について、現状や理想との隔たりから課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。</p> <p>② 特産品を生かした地域の活性化に向けて必要な情報を、手段を選択して収集している。</p> <p>③ 地域の活性化に向けて収集した情報を取捨選択したり、複数の情報や考えを比較したり、関連付けたり、焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。</p> <p>④ 伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p>	<p>① 活動を通して、自分と地域や地域の活性化に取り組む人々とのかかわりを見直そうとしている。</p> <p>② 地域の活性化に向けた取組を考えたり実行したりする中で得た知識や友達や地域の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、地域の活性化に向けて粘り強く取り組もうとしている。</p>

5 指導と評価の計画（全70時間）※例

次（時間）	ねらい・学習活動	知	思	態	備考
地域の現状を調査し、地域の活性化に向けた取組を考えよう （20時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の玄関口である駅に出かけ、駅長の話の聞いたり、駅周辺の様子を見学したりする。 ○地域の商店街の様子を調べたり、過去と現在の様子について調べたり、地域の方々から話を聞いたりする。 ○地域がもつ特徴やよさ等を調べる。 ○調べて分かったことを整理して、地域の現状を明らかにする。 ○地域の活性化に向けて、自分たちにできることを考える。 	①	①		<p>知：振り返りシート</p> <p>思：発言分析 振り返りシート</p>
地域の食材を使った「オリジナル駅弁」をつくろう （30時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○地域が進めている活性化の在り方を調べたり、関係機関から話を聞いたりする。 ○全国の駅弁等について調べ、特徴を整理する。 ○どんな駅弁を作りたいか視点を決めて考え、駅弁イメージ図をつくる。 ○駅弁を作るために知りたいことを出し合い、インタビュー等で情報を収集する。 ○栄養教諭や観光課の方々、地域に訪れている観光客等に自分たちの駅弁の意見をもらい、活動の方向性を見いだすために整理分析する。 ○試作・改善を繰り返す。 ○駅弁についての意見を踏まえ、完成した駅弁のPR内容や方法を考える。 	②	② ③ ① ④	② ③	<p>知：振り返りシート</p> <p>思：発言分析 態：行動観察 振り返りシート</p> <p>思：発言分析 振り返りシート</p> <p>思：発言分析 振り返りシート</p>
自分たちの取組を振り返り、地域の活性化と自分たちの関わりについて考えよう （20時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの活動を振り返るとともに、地域の特産品や活性化の取組と自分たちの関わりについて考える。 ○他地域の活性化の様子等を調べ、自分たちの地域にも生かせそうな取組を調べたりまとめたりす 	③	②	②	<p>知：振り返りシート 態：行動観察 振り返りシート</p> <p>思：振り返りシート</p>

	<p>る。</p> <p>○関係機関と協働しながら、持続可能な活性化に向けたアイデアをまとめ、「地域 MIRAI ノート」にまとめる。</p>	④			知：MIRAI ノート
--	---	---	--	--	-------------

【留意点】

児童（生徒）が自ら探究活動を進めるイメージをもって、学習活動のまとまりを示す。

探究的な学習の過程が充実するよう、探究プロセスを複数回繰り返すようにする。

6 本時の展開（38／70）

（1）本時のねらい

オリジナル駅弁の食材について、「佐伯ならではの」「時間がたってもおいしい」という視点に沿って、根拠や理由を明確にして話し合ったり、それぞれの食材のよさ等について比較したり多面的に検討したりすることを通して、佐伯の「めだま」となる駅弁にふさわしい食材を決定することができるようにする。

（2）展開（45分）

学習活動及び予想される子どもの反応	時間	○教師の支援 ◆評価規準及び評価の方法															
1 前時を振り返りながら、本時の課題を確認する。 ・くま手チャートで考えた食材の振り返りをする。 ・前時の振り返りシートを数人分紹介する。	5	○前時の振り返りシートの中から、本時の課題につながる内容のものを紹介する。															
（めあて）佐伯の「めだま」にふさわしい駅弁になるような食材を決めよう																	
・自分たちの駅弁に欠かせない要素（視点）を確認し、それに沿って話し合うことを押さえる。 「佐伯ならではの」「時間がたってもおいしい」 2 個人が選んだ食材を出し合い、班で検討し、1～2個に絞り込む。 ・マトリックスを用いて多面的に話し合う。 ・個人のくま手チャートに記された根拠や理由を出し合う。	15	○話し合いの視点を板書に位置付け、意識させる。 ◆B-③（発言分析） <具体的な児童の姿> ・それぞれの食材の特徴を踏まえ、自分なりの理由や根拠をもって視点に基づき検討している。															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">食材／視点</th> <th style="width: 35%;">佐伯ならではの</th> <th style="width: 50%;">時間がたってもおいしい</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ぶり</td> <td style="text-align: center;">△</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>ひじき</td> <td style="text-align: center;">△</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>塩トマト</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>マリンレモン</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </tbody> </table>	食材／視点	佐伯ならではの	時間がたってもおいしい	ぶり	△	○	ひじき	△	○	塩トマト	○	○	マリンレモン	○	○	20	○食材名のみが発言が続く際には、「どうしてそうなったか」問いかけ、根拠を明確にするようにする。 ○全体での話し合いによって食材が決定されるよう、「みんなはどう思うか」等問いかけていく。
食材／視点	佐伯ならではの	時間がたってもおいしい															
ぶり	△	○															
ひじき	△	○															
塩トマト	○	○															
マリンレモン	○	○															
3 班で絞り込んだ食材について、全体で検討する。 ・ボックスチャートを黒板に位置付け、班で出された意見を全体で検討しながら、食材を決めていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <pre> graph TD G[ごまだし] --- S[塩トマト] G --- C[ちりめん] C --- ML[マリンレモン] C --- B[ぶり] B --- B2[ぶり] B --- H[ひじき] </pre> </div>	5	○本時の話し合いについての自分の思いや次時のめあてを書くよう助言する。															
4 本時の振り返りをする。 ・本時の話し合いを振り返り、次時のめあてについて考える。																	

第2学年〇組 学級活動（1）学習指導案

令和〇〇年〇月〇日〇曜日
第〇校時 〇時〇分～〇時〇分
指導者 〇〇 〇〇〇

1 議題名 第2学年「学年生徒会に自分たちで考えた計画を提案しよう」
学級活動（1）「学級や学校における生活づくりへの参画」

- * 議題名を示し、内容のまとまりを付記する。
- * 学級活動（2）（3）の場合は「議題名」ではなく「題材名」となる。

2 議題について

（1）生徒の実態

- * 生徒の学級生活における実態や、これまでの学級活動の取組など
当該学年の評価規準からみた、話し合い活動における課題や目指す方向など

（2）議題選定の理由

- * 議題が選定された背景や教師の指導観 ・評価との関わりについて
- * 学級活動（2）（3）の場合は、「題材設定の理由」となる。
- * 学級活動（2）（3）の場合は、取り上げる題材の内容、今まで取り組んできたこととの関連、その題材を取り上げる意義、題材と生徒との関係など

3 評価規準（例）

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだすことができる。 課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。

- * 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、学習指導要領解説特別活動編（平成29年7月）で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。（参考：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料：国立教育政策研究所、令和2年3月）

4 事前の活動

日時	生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】＜評価方法＞
〇月 〇日 ()	* 生徒の活動を簡潔に書く。 ・学年、学級、自分自身の生活を4月から振り返る。	* 準備物や具体的な手立てを 記入 ・3年生に向けて、今の自分のクラスの課題を確認させ、原因を考えさせる。	* 事前・本時・事後の活動の中で、どのように評価規準が位置付けられているのかが分かるように書く。
〇月 〇日 ()	・出てきた課題の中から1つ選定し、グループ毎にその課題解決の方策を考える。 (学級全員)	・全員から出された学級の課題を思考ツール(ピラミッドチャート)を用いて、1つに選ばせていく。 ・その課題を解決する方策については、自由に考えさせる。	◎自分のクラスの課題について、積極的に考えようとしている。 【主体的態度】 ＜観察・ワークシート＞
〇月 〇日 ()	・選定された課題について、どのような提案が出てくるか想定し、話し合いの進め方を確認する。(計画委員会)	・選定された課題から話し合いの見通しがもてるように助言する。必要に応じて話し合いの流れを作成させる。 ・計画委員会を励まし、話し合いの意欲を高める。	

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

自分たちの学級の課題を解決するために、どのような方法が提案できるかについて、目的を意識し互いを尊重しながら話し合うことにより、合意形成を図ることができるようにする。

(2) 展開

話し合いの順序	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】＜評価方法＞
1 はじめの言葉 2 計画委員の自己紹介 3 議題の確認 4 提案理由や話し合いのめあての確認 5 決まっていることの確認	<ul style="list-style-type: none"> めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。 提案者の思いや願いを全員が理解し、学級全員の問題であることを確認する。 <p>話し合いのめあて 「学年生徒会への提案を1つにまとめよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 決まっていることを確認する。 <p>①日時・・・○月○日○時間目 ②場所・・・教室 ③課題・・・「提出物を全員が出すためにはどうすればよいか」</p>	<p>話し合いのめあてを明確化する。</p> <p>「十分満足できる活動の状況」を的確に見とるため、具体的な生徒の姿をいくつか想定して記述する。</p>
6 話し合い	<ul style="list-style-type: none"> 司会が進行に困った時は方向性を示唆し、生徒の合意形成を方向付けるような助言はしない。 自治的活動の範囲を超えそうな場合は、適切に助言する。 必要に応じて、自分の意見に固執せず、納得したうえで考えを変えるなど、折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さについて助言する。 これまでの集会の経験をもとに必要な係については事前に短冊を用意しておき、今回新たに必要な係について話し合う。 	<p>◎これまでの学級活動の経験を生かしたり、友達の意見のよさを生かしたりして、課題解決のための内容や工夫について考えている。</p> <p>◎提案理由や話し合いのめあてに沿って発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ＜発言・観察＞</p>
7 決まったことの発表 8 話し合いの振り返り 9 先生の話 10 おわりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> よかった点や課題について自己評価し、友達のよかった点等について相互評価できるよう助言する。 学年生徒会に向けて、学校をよりよくしていくという視点に立って振り返る。 終末の助言では、「①前回の話し合いと比べてよかった点、合意形成したことへの価値付けや賞賛、②今後の課題、③計画委員へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等」について、簡潔に述べる。 提案理由を意識した発言や建設的な発言、意欲的に参加していた生徒を賞賛する。 実践への見通しをもち、意欲が高まるように言葉かけを行う。 	

6 事後の活動

日時	生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】＜評価方法＞
○ 月 ○ 日 ()	<ul style="list-style-type: none"> ・学級で合意形成できた課題解決の方策を整理し、学年生徒会に提案する準備を行う。(計画委員会) ・その他の生徒は、学級の課題解決の方策について、日々実践を行う。(学級全員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会で合意形成できたことの要点を整理して書くよう計画委員に助言する。 ・学年生徒会の取組として選定されるよう励ます。 	◎学級で合意形成したことを意識しながら、友達と協力して取り組もうとしている。 【思考・判断・表現】 ＜学級会ノート・観察＞
○ 月 ○ 日 ()	<ul style="list-style-type: none"> ・学年生徒会に出席し、課題と解決方策を提案し、学年で取り組むべきことになるように、学級の意見を述べる。(計画委員会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の合意形成の手順の中で示されたアイデアなども意見の中に織り込むよう助言する。 ・学年生徒会の取組として選定されれば賞賛し、選定されなくてもこれまでの取組を承認し慰労する。 	
○ 月 ○ 日 ()	<ul style="list-style-type: none"> ・学級で、学年生徒会の提案結果について、報告するとともに、学級では課題解決に向けた取組を継続するよう呼びかける。(計画委員会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の態度を振り返るとともに、めあてに基づいた振り返りを行い、自分の役割を果たすことや友達のよかったところについても認められるように助言する。 	
○ 月 ○ 日 ()	<ul style="list-style-type: none"> ・学級で合意形成できたことを実践しているか振り返りどのような状況かについて、成果と課題をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成したことは、学級全員で取り組むべきということを学級全体に知らせ、できている生徒について承認する。 	◎取組の成果と課題を振り返り、次の活動に生かそうとしたりしている。 【主体的態度】 ＜学級会ノート・観察＞